



湯川ゼミ学生のための 基礎技術

イスラーム史研究基礎入門

はじめに

本稿はこれから東洋史, それも西の方のやつを勉強・研究してみつか, という人のために書かれています. 本稿ではつぎのようなことを説明します. ネタの見つけ方, ネタの深め方 (関連文献の探し方), 関連文献の手に入れ方, 参考文献リストの作り方などです. つまり, ここでは網羅的なデータと非常に細かいテクニカルなことを扱います. 「どのように考えたらよいか」「どのように書けばよいか」「どのように発表・討論すればよいか」は, さすがに私には荷が勝ちすぎています. そのようなことを知りたければ, 分野は違いますが, 野村一夫さんによる [Socius](#) の「[社会学の作法・初級編](#)」をご覧ください. 授業の受け方やレジュメの作り方まで, その思想的背景とともに説明されています.

当然のことながら, 本稿は慶應義塾大学文学部東洋史学専攻の湯川ゼミ向けに調整されていますので, 注意してください. つまり, ここに書かれていることが universal (普遍的) ではない, ということです. 学生が書いたものだということも忘れないでください. この件で湯川先生に苦情を出したりしないでください. 私に苦情を下さい. 喜んで受け取り反映させます. というわけで, 図書館情報学もイスラームもさわりしか知らない私に, 専門的見地からのアドバイスを大歓迎します. また, この文書のユーザーの方もご忌憚ないご意見をお寄せください. メールを kotoito@2001.jukuin.keio.ac.jp までお願いいたします. 本文書は成長します. 時と場合によってどんどん修正されます. ご協力をお願いいたします.

本文書の更新履歴やほかの版については私の Web サイト [Eskandar d'Esfahan](#) をご覧ください. ここにはご覧の pdf 版のほか, A3 モノクロ両面印刷用に面付けした版, またそれぞれについて印刷しての可読性を考慮して明朝体を主体として割り付けた版, HTML 版も置いてあります. また更新した場合のアナウンスもここからリンクしてあります.

目次

はじめに	3
------------	---

ネタを 見つける	5
----------------	---

■ 図書館をうろつく	6
------------------	---

分類と配架	6
-------------	---

配列	8
----------	---

歩こう	8
-----------	---

■ 概説書をあさる	10
-----------------	----

■ 論集をあさる	16
----------------	----

■ 辞典を「読む」	22
-----------------	----

『イスラム事典』	22
----------------	----

『岩波イスラム辞典』	22
------------------	----

『イスラム世界事典』	23
------------------	----

<i>The Encyclopædia of Islam</i>	23
--	----

<i>Encyclopædia Iranica</i>	24
-----------------------------------	----

『歴史学事典』	24
---------------	----

『事典 イスラムの都市性』 亜紀書房, 1992. ISBN:4750592099	25
---	----

■ 目的なく雑誌を読む	26
-------------------	----

和文	26
----------	----

欧文	26
----------	----

■ イスラム史じゃない本も見てみる	
-------------------	--

.....	27
-------	----

民族と国民国家	27
---------------	----

■ イスラム史じゃない本も見てみる	27
-------------------------	----

漂う「日本」と日本のあいだ	28
---------------------	----

国際政治のアクターたち	29
-------------------	----

あの頃——時空間へのまなざし	29
----------------------	----

帝国を生きる	30
--------------	----

近代という冷たく燃える焰	31
--------------------	----

「未来」と「夢」	31
----------------	----

2 ネタを深める	33
----------------	----

■ 概論	34
------------	----

■ KOSMOSOPAC を使う	35
------------------------	----

2.2.1 キーワードによる検索	35
------------------------	----

2.2.2 主題による検索	38
---------------------	----

■ NDLOPAC を使う	40
---------------------	----

2.3.1 書籍	40
----------------	----

2.3.2 雑誌記事索引	40
--------------------	----

■ その他のオンライン蔵書目録を使う	40
--------------------------	----

2.4.1 WINE	40
------------------	----

2.4.2 東京大学蔵書検索	41
----------------------	----

2.4.3 NACSISWebcat	41
--------------------------	----

2.4.4 World Cat	41
-----------------------	----

2.4.5 Library of Congress Online Catalogs	41
---	----

■ その他のオンライン雑誌目録を使う	42
--------------------------	----

2.5.1 MagazinePlus	42
--------------------------	----

2.5.2 First Search	42
--------------------------	----

ネタを 見つける

関心のあるテーマを
見つけなければ、
物事が始まりません。
この章では
テーマを見つけるための
方法について述べます。
あわせて図書館の
使用方法についても
少しは学べるでしょう。

図書館をうろつく

慶應義塾図書館は難解な哲学から UFO ネタの史料までとりそろえて、さまざまな好奇心に応えてくれます。それだけにシステムを知らないと、関係ない本に囲まれ宏漠たる沙漠にひとり佇むかのような印象を得ることになるでしょう。慶應義塾図書館のシステムを概説します。

概説書をあさる

いきなり細かい小難しいテーマにとりかかるのはとても難しいことです。特に歴史は、細々とした一つ一つの出来事と世界レベルの動きが常に関連するとてつもない分野なのです。まずは大きな流れを押さえておくために概説書を読んでみましょう。ここではイスラーム史に関連する概説書を紹介します。

論集をあさる

論文は一つの問いに対し、一つの答えを与えるものです。論文は雑誌に掲載されるのですが、全体的な状況を知らないときに雑誌論文一つだけを読んでも物足りなさや、狐につままれたような感じを得ることがあるでしょう。論集は一定のまとまりをもって論文を集めたものです。まずはここから論文読みに入りましょう。

辞典を「読む」

辞典・事典を甘く見てはいけません。研究には「工具」というものが必須となりますが、もっとも身近な「工具」が辞典です。ものを調べる癖をつけるためにも辞典に親しみましょう。そして同時に、辞典は調べるだけでなく「読む」こともできるのです。

目的なく雑誌を読む

もちろんここで言う雑誌とは論文を集めた雑誌のことです。雑誌は普通、読みたい論文があるときに手にとって、必要な部分だけ読むものですが、パラパラとめくっていると思わぬ発見があることもあります。そして何より雑誌そのものに慣れるためにも手に取ってみましょう。

イスラーム史じゃない本も見てみる

何が悲しくてこれほどの書物が集まった慶應義塾図書館を前にして専門の本ばかりを読まなくてはならないのでしょうか。そして視野を広げるということも研究には必要ではないでしょうか。イスラームとは直接は関係なくても役に立つだろう本を独断と偏見で紹介します。

■ 図書館をうろつく

イスラーム史に限らず、なにか調べたいと思ったら、図書館は非常に有用な場所です。そしてまた、何かに興味を見いだすにも有用な場所です。図書館には、知識が山のように積まれています。そんな場所をふらふらし、気になった本を手にするというだけでも、だいぶ世界は広がります。

当然のように思っているかもしれませんが、慶應義塾図書館▼の最大の魅力は、ほぼ全館開架であるということです。以前の大学図書館は、ある程度の本だけを開架にしておいて、それ以外の本は書庫にしまってありました。それらの本を見たければ、請求番号を調べて、図書館の人をお願いして取ってきてもらわなければならないのです。慶應義塾図書館では、我々は書架をながめて、興味次第で本を手にとってパラパラとめくることができます。この強み、生かさない法はありません。

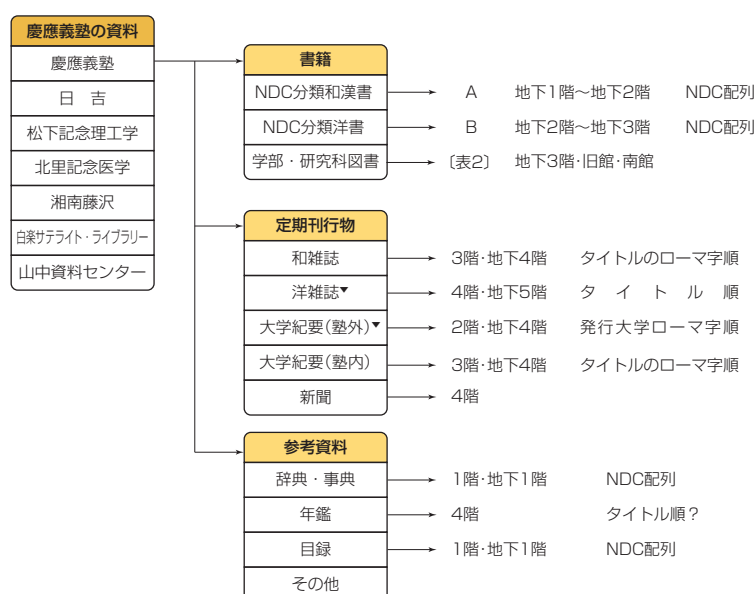
しかし、慶應義塾図書館は広大です。以前、私が新館の全ての書架の間を歩いたときには、本を手にとって眺めた時間もあわせて、約7時間かかりました。そんな場所に何の案内もなく足を踏み入れると迷子になること必至です。その一方で、イスラームの本はこのあたり、と目星がついてしまうと、それ以外の場所にいなくなる傾向があるようです。とりあえずここでは、まず慶應義塾図書館での配架の方法と概ねの場所について説明します。しかし、実際に歩いた方が理解は圧倒的に早いはずです。本冊子「第8章 慶應義塾図書館の歩き方——探検のために」と併せて参照してください。

分類と配架

慶應義塾の資料はまず各地区にわかれ、その上で利用者側から見て非常に大雑把にいうと「書籍」「定期刊行物」「参考資料」の3種類にわかれます▼。この区別は慶應義塾図書館に限らずほとんどの図書館で同様です。また参考文献の記述法などもこれら分類ごとに異なる重要な区別です。

次に「書籍」は「NDC分類和漢書」「NDC分類洋書」「学部・研究科図書」に、「定

〔図1〕慶應義塾資料の分類・配架



慶應義塾図書館とは三田メディアセンターの図書館、すなわち塾内用語での「三田図書館」のことです。施設としては旧館、新館、その他から構成されます。慶應義塾の資料収集機関の統一的呼称は「慶應義塾メディアセンター」であり、慶應義塾図書館ではありません。

「利用者側から見て」というのは、実際のメディアセンター側の分類・配架規則の原理はここに書いたものとは全く異なるのです。分類は予算や受入経緯など非常に複雑な諸条件を経て決定されます。また配架も歴史的な理由や物理的制約などさまざまな事情が絡んで決定されます。しかしメディアセンター側の原理に従って記述すると著しく複雑で、かえって不便になってしまいます。そこで利用者側から見たときはおおむねこのように見える、というかたちで記述したわけです。

中国・韓国・朝鮮語雑誌、ロシア語雑誌、アラビア文字雑誌は洋雑誌に含まれず、別置されます。これについては後述の「配列」の項を参照してください。

慶應義塾以外の大学紀要でも女子大・短大のものは全号地下4階です。

期刊行物」は「和雑誌」「洋雑誌」「大学紀要」「新聞その他」に分かれます〔図1〕。

おおむね上記の分類は字義のとおりですが、書籍についてはやや複雑なので解説を加えます。「NDC分類書」は和書・洋書ともごく一般的な書物です。それに対して「学部・研究科図書」は専門性の高いものと思ってよいでしょう▼。

請求番号一段目は上記の分類に従って付与されます。「NDC分類和漢書」は A, 「NDC分類洋書」は B, 「学部・研究科図書」は学部専攻などの略称（たとえば東洋史なら OH）となります。「参考資料」は R が付され禁帯出となります▼。学部・研究科図書の請求番号の詳細は〔表2〕を参照してください。

具体的な配架場所は例外（例えば日本の地方史）を除いて〔図1〕のとおりです。レファレンスについては一般的なものは 1 階（歴史と概ねの社会科学）と地下 1 階（総

利用者側の理解としてはこれでよいのですが、NDC分類書と学部・研究科図書は本来は予算区分に基づくものです。すなわちメディアセンターの予算で購入される図書が NDC分類書となり、学部・研究科に割り振られた図書購入費によって購入された書籍が学部・研究科図書となります。予算の使い方の面から当然、上記のような一般性、専門性の違いが出てくるわけです。しかし一部、概説的な学部・研究科図書や、専門的な NDC分類書も存在しないわけではありません。

参考資料でも NDC分類書や学部・研究科図書となるものもあります。

〔表2〕おもな請求番号一段目一覧

請求記号	資料の内容
A: 000-999	NDC 分類和漢書
AC	文／考古学
AE	文／美学
AL	文／アメリカ文学
AT	文／図書館情報学（和）
AV	視聴覚資料
B: 000-999	NDC 分類洋書
BC	商学部
BT	文／図書館情報学（洋）
C	加除式資料
CD	遠山 (CD)
CL	文／中国文学
DCR	文／図書館情報学（参考）
DT	博士論文（慶大）
E	文／図書館情報学（児童書）
EBS	経済・商学関係資料
EC	経済学部
EDC	EU 刊行物
EH	文／民族学
EL	文／イギリス文学
ET	文／倫理学
EX	国内遺跡発掘調査報告書
FL	文／フランス文学
GL	文／ドイツ文学
GS	社会学研究科／社会学
GSP	社会学研究科／教育学
H, HB-HW	星文庫
HSA, HSB	文／人間科学
J	文／図書館情報学（児童書）
JA, JB	法律学・政治学／記念論文集
JH	文／日本史学
JL	文／国文学
JPS	法律・政治学関係資料（雑誌）
JR	法／法律学
LN	文／言語学
LSA, LSB	法科大学院図書

LTS	旧文学部資料室所蔵雑誌
MA, MB	小型本
MBL	三田文学ライブラリー
MFA, MFB, MFC, MFN	マイクロフィッシュ
MRD	機械可読資料
MT	修士論文（慶大）
N	新聞、雑誌、紀要等
OECD	OECD 刊行物
OH	文／東洋史
PDA, PDB	文／教育学
PH	文／哲学
PL	法／政治学
PRA, PRB	保存書
PS	文／心理学
RA, RB	参考図書
RAT, RBT	文／図書館情報学（参考）
RCL	文／中国文学（参考）
Ref	参考図書
R1LA-R4LA	参考図書大型本（和）
R1LB-R4LB	参考図書大型本（洋）
R1WA-R4WA	参考図書横長本（和）
R1WB-R4WB	参考図書横長本（洋）
RSV	リザーブブック
SAK, SAL	NDC 分類和漢書
SC	文／社会学
SPA, SPB	特別書
ST	統計資料
T	児童書
TA, TB	個人文庫
TP	教職課程
TY	遠山音楽文庫
WH	文／西洋史
YA, YB, YC,	マイクロフィルム
Z	新聞、雑誌、紀要等

記～哲学，社会学～文学)，年鑑などは4階に配架されます。なお古いNDC分類書は白楽に移されます。また三田にある古いNDC分類書と雑誌は地下4階にあります。

配列

一般図書

一般図書は、和書、洋書とも後述する日本十進分類法¹⁾によって配架されます。具体的には、和書では地下一階に1類「哲学」から3類「社会科学」まで、地下二階に4類「自然科学」から9類「文学」までが収められています。洋書は地下二階にほとんどのものが、地下三階に独文仏文その他の文学が収められています。

学部・研究科図書

学部・研究科図書は、地下三階と旧図書館に配架されます。文学部図書は、中文以外はすべて地下三階にあります。ただし近現代を扱う場合は、旧図書館のPL法学部政治学科図書を利用することがあるかもしれません。配列は、ある独特のルールに従っています。これらの図書は、PDA/PDBの教育学図書以外は、十進分類法は適用されません（あくまで配架に際して）。

雑誌

雑誌の場合は、配架場所の項で述べたとおりです。配列順はアルファベット順となります（たとえば『イスラム世界』ならiの項にあります。大学紀要は発行大学のアルファベット順の配列です（たとえば『史学雑誌』は東京大学の発行ですからtになります）。

歩こう

では、説明はこれくらいにして歩いてみましょう。ここまで書いてきたことは、頭で理解するより歩いて目で見たほうが、よくわかるはずです。さらに一度でも日本十進分類法の順を追って歩いていたことがあるかないかで、「道具」としての図書館の使い勝手はかなり違うはずです。これについては、「第8章慶應義塾図書館の歩き方―探検のために」として、具体的にまとめましたのでご覧ください。

1) 2.2.2 項における説明を参照してください。

■ 概説書をあさる

概説書を読んでもみるのは、興味への第一歩です。幸いなことに、イスラーム史の先生は文章のうまい方が多いし、ここ数年で世界史シリーズのイスラーム史の部分もずいぶんと整備されてきました。とりあえず以下のようなものがあります。意外と一つや二つは聞いたことがないんじゃないでしょうか。

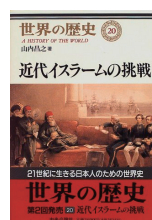
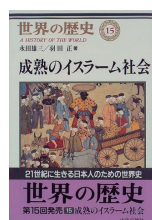
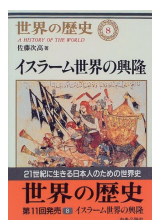
ただし一般的な概説書全てに視野を広げると膨大な量になりますので、ここでは、一般向けの世界史シリーズの類を紹介します。紹介する書籍は読みやすいものですし、図版が多いので楽しいはず。ついでに全巻読むと、もっと楽しいかもしれません。一方で注がきちんと付いていたり、参考文献リストが完全に示されているわけではありません。本の内容について、わずかでも説明が欲しければ東京大学情報基盤センターの「ブックコンテンツ・データベース」を利用するとよいでしょう。また書籍紹介のISBNコードのあとの[a](#)はamazon.co.jpへの[X](#)はKOSMOS-OPAC IIへのリンクとなっています。特にamazonの内容紹介は役に立つでしょう。

概説書の類を多く知りたければイスラーム地域研究総括班の「現代イスラーム世界を知るための基本的な日本語文献リスト」（現代となっていますが歴史も扱っています）や「あらたな地平線をめざして」、『東京外国語大学図書館（イスラーム関係資料所蔵目録）』などをご利用ください。また英語が入ってもいいという人は、同じく東京外大の「中東・イスラーム関係文献」が役に立つでしょう。

世界の歴史

新版

中央公論（新）社
1998-1999



核となる中東イスラーム史は、8、15、20の三巻からなります。図版の量、新しさ、読みやすさなどを総合的に勘案すると、まず読んでおくべき概説でしょう。

8	佐藤次高	『イスラーム世界の興隆』	1997	ISBN:4124034083	a X
15	永田雄三、羽田正	『成熟のイスラーム社会』	1998	ISBN:4124034156	a X
20	山内昌之	『近代イスラームの挑戦』	1996	ISBN:4124034202	a X
9	杉山正明、北川誠一	『大モンゴルの時代』	1997	ISBN:4124034091	a X
13	石澤良昭、生田滋	『東南アジアの伝統と発展』	1998	ISBN:4124034137	a X
14	佐藤正哲、中里成章、水島司	『ムガル帝国から英領インドへ』	1998	ISBN:4124034148	a X

新書 イスラームの 世界史

講談社
1993



三巻からなる初めてのイスラーム世界の通史。現代新書に収められています。コンパクトですが、ポイントごとに専門家が執筆しているので、非常に充実しています。各巻末に「もっと勉強したい人のためのブックガイド」が所収。

1	佐藤次高、鈴木董編	『都市の文明イスラーム』	1993	ISBN:4061491628	a X
2	鈴木董編	『パクス・イスラミカの世紀』	1993	ISBN:4061491660	a X
3	坂本勉、鈴木董編	『イスラーム復興はなるか？』	1993	ISBN:406149175X	a X

世界各国史

新版

山川出版社

1998-



こちらも時代・地域ごとに専門家が執筆。考古学年代から説き起こしています。特に近現代の比重が重いです。ブックガイドはかなり詳細なので是非参照すべきでしょう。

8	佐藤次高 編	『西アジア史 I アラブ』	2002	ISBN:4634413809		×
9	永田雄三 編	『西アジア史 II トルコ・イラン』	2002	ISBN:4634413906		×
4	小松久男 編	『中央ユーラシア史』	2000	ISBN:463441340X		×
6	池端雪浦 編	『東南アジア史 II 島嶼部』	1999	ISBN:4634413604		×
7	辛島昇 編	『南アジア史』	2004	ISBN:4634413701		×
10	川田順三 編	『アフリカ史』	未刊			
16	立石博高 編	『スペイン・ポルトガル史』	2000	ISBN:4634414600		×
17	柴宜弘 編	『バルカン史』	1998	ISBN:4634414805		×
18	桜井万里子 編	『ギリシア史』	2005	ISBN:4634414708		×

世界史 リブレット

山川出版社

1996-

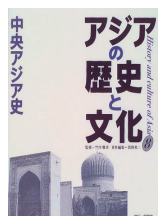


高校生向けのテーマごとの小冊子です。やさしく書いてありますが、新しい論点が詰め込んであるので非常に楽しいシリーズです。また各テーマについて理解を固めるのに有用です。

11	梅村坦	『内陸アジア史の展開』	1997	ISBN:4634341107		×
15	東長靖	『イスラームのとりえ方』	1996	ISBN:4634341506		×
16	三浦徹	『イスラームの都市世界』	1997	ISBN:4634341603		×
17	佐藤次高	『イスラームの生活と技術』	1999	ISBN:4634341700		×
18	杉田英明	『浴場から見たイスラーム文化』	1999	ISBN:4634341808		×
19	林佳世子	『オスマン帝国の時代』	1997	ISBN:4634341905		×
37	加藤博	『イスラーム世界の危機と改革』	1997	ISBN:4634343703		×
52	臼杵陽	『中東和平への道』	1999	ISBN:463434520X		×
53	田村愛理	『世界史のなかのマイノリティ』	1997	ISBN:4634345307		×
57	部勇造	『歴史意識の芽生えと歴史記述の始まり』	2004	ISBN:4634345706		×
58	高山博	『ヨーロッパとイスラーム世界』	未刊			
59	関哲行	『スペインのユダヤ人』	2003	ISBN:4634345900		×
60	私市正年	『サハラが結ぶ南北交流』	2004	ISBN:4634346001		×
62	荒川正晴	『オアシス国家とキャラヴァン交易』	2003	ISBN:4634346206		×
69	飯塚正人	『現代イスラーム思想の源流』	未刊			
70	濱田正美	『中央アジアのイスラーム』	未刊			
71	中里成章	『近代インドのヒンドゥーとムスリム』	未刊			
72	弘未雅士	『東南アジアの建国神話』	2003	ISBN:4634347202		×
73	陣内秀信	『地中海世界の都市と住居』	未刊			
76	真道洋子	『イスラームの美術工芸』	2004	ISBN:4634347601		×
79	小松香織	『オスマン帝国の近代と海軍』	2004	ISBN:4634347903		×
85	清水宏祐	『イスラーム農書の世界』	未刊			

アジアの歴史と文化

同朋社
1994-2000



コンパクトにまとまった通史。割付が洒落ていますが、そのせいで文章量が減っているという話もあります。各所のコラムがためになります。編者を見ればわかりますが、中央アジアが強く、西アジアもイランが詳しくなっています。

8	間野英二 編	『中央アジア史』	1999	ISBN:4810408612		
9	間野英二 編	『西アジア史』	2000	ISBN:4810408620		

イスラームを学ぶ人のために

世界思想社
1993

時代的展開、地域的展開、主題的展開の基礎をそれぞれわかりやすく、かつ必要最低限度に論じています。巻末に文献目録があります。

	山内昌之、大塚和夫 編	『イスラームを学ぶ人のために』	1993	ISBN:4790704769		
--	-------------	-----------------	------	-----------------	--	--

地域からの世界史

朝日新聞社
1992-1994

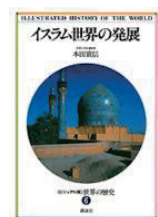


全然売れなかったということですが、コンパクトな冊子に広いスパンの通史が展開されています。特に内陸アジアや地中海など、これまで通史の書かれなかった「地域」に焦点をあてています。

4	桜井由躬雄、石沢良昭、桐山昇	『東南アジア』	1993	ISBN:4022584998		
5	辛島昇	『南アジア』	1992	ISBN:4022585005		
6	間野英二、中見立夫、堀直、小松久男	『内陸アジア』	1992	ISBN:4022585013		
7	屋形禎亮、佐藤次高	『西アジア 上』	1993	ISBN:4022585021		
8	永田雄三、加藤博	『西アジア 下』	1993	ISBN:402258503X		
10	松本宣郎、牟田口義郎	『地中海』	1992	ISBN:4022585056		

ビジュアル版世界の歴史

講談社
1983-1985



ペルシア語史料を使ったモンゴル帝国史研究を開いた本田實信さんは、イラン史の専門家でもあります。ヴィジュアル版の名の通り、写真・図版が多く楽しめます。やはりイラン寄りという感是否めませんが、アラムート砦のドキュメントは圧巻です。

8	本田實信	『イスラム世界』	1985	ISBN:4061885065		
---	------	----------	------	-----------------	--	--

人間の世界歴史

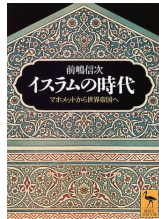
三省堂
1981

人びとの生き方としての「文化」に重点をおいた通史。アッバース朝下のバグダードにもっとも重点を置いています。

9	矢島文夫	『アラブ民族とイスラム文化』	1981			
---	------	----------------	------	--	--	--

世界の歴史

講談社
1976-1983



古いというほどには古くなく，新しいというほどには新しくないという微妙な位置にある通史．10巻はジャーヒリーヤのアラビアからサファヴィー朝のエスファハーンまでをカバーします．前嶋さんの河出版「世界の歴史」での記述と比べてみるのもよいでしょう．

10	前嶋信次	『イスラムの時代』	1977	[三田所蔵]	a. ✕
		講談社学術文庫	2002		a. ✕
12	岩村氏？	『中央アジアの～』			a. ✕
22	護雅夫，牟田口義郎	『アラブの覚醒』	1978	[三田所蔵]	a. ✕

生活の世界歴史

河出書房（新社）
1975-1976



10世紀のバグダードとコルドバに注目し，人びとの生き方を活写します．この時代を詳しく扱った概説はほかにはありませんし，史料の引用も多いので，貴重です．私は概説書の類では，この本の文章が一番気に入っています．巻末に史料についての言及があります．他の巻も堀米庸三ら文章に香りのある人たちが書いています．

7	前嶋信次	『イスラムの蔭に』	1975		a. ✕
		再版	1980	[三田所蔵]	a. ✕
		河出文庫	1991		a. ✕

世界史大系

誠文堂新光社
1969

でかい本．写真を含め非常に図版の多い本です．また，預言者の時代から近代までをバランスよく記述しています．

9	榎一雄 編	『イスラーム』	1969	[三田所蔵]	a. ✕
---	-------	---------	------	--------	------

世界歴史シリーズ

世界文化社
1968

ばかでかい本です．ゆえに非常に写真が多く楽しめます．この時代としては珍しく一部カラーです．見たことのない図版もあるかもしれません．

8	嶋田襄平 編	『イスラム世界』	1968	[三田所蔵]	a. ✕
---	--------	----------	------	--------	------

世界の歴史

河出書房
1968

若干古くなっているきらいはありますが，サーサーン朝からコンスタンティノープル・グラナダの陥落までを扱う通史です．

8	前嶋信次	『イスラム世界』	1968	[三田所蔵]	a. ✕
10	羽田明			[三田所蔵]	a. ✕

世界の歴史

旧版

中央公論社
1961

あえて挙げておいてなんですが、あまりに古いので読まない方がいいです。シルクロードが中心で、イスラーム世界の扱いはきわめて弱く、「オスマン＝トルコ人の暴虐」とか結構いかなものかという記述が散見されます。

5 岩村忍 編 『西域とイスラム』

1961 [三田所蔵]
再版? 1983



世界各国史

旧版

山川出版社
1955-87

世界各国史の旧版です。三十年間強に渡って刊行されたあげくに、十年後には新版が出ています。『中央アジア史』と新版の『中央ユーラシア史』では注目する場所が全然違っているのがわかるでしょう。といっても、これらの本は、内容がそれほどひどく古くなっているわけではありませんし、味わいのある文章を読むことができます。

11 前嶋信次 編 『西アジア史』

16 江上波男 編 『中央アジア史』

1955 [日吉所蔵]
新版 1972 [三田所蔵]
1987 ISBN:4634411601

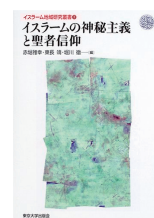
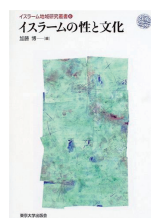


■ 論集をあさる

論集とは論文をいくつか集めて本にしたものです。CD でいうところのオムニバスや小説でいうアンソロジーのようなものです。それと同じように、無意味に論文が集まって本になっているわけではなく、あるテーマに沿って論文を集めてあります。「講座……」というようなシリーズ名が多いのは、そのあらわれでしょう。もちろん、内容はある問いを立てて、答えを与えるというスタイルをとった論文があつまっており、その点が概説書との違いとなります。

ただし論文とはいっても、雑誌に掲載されるものと比べて、より中心的・基礎的な事柄に関するものが多くなります。またともすれば枝葉末節に属するような事柄が多くなりがちな雑誌論文をむやみやたらと読むよりも「読み」のパフォーマンスははるかに高いものとなるでしょう。同時にある論集が編まれた時期の主要な関心の所在も知ることができます。

これまた最近、ずいぶんと出回ってきました。主な論集は次の通り。基本的に収められているのは論文ですから、参考文献リストがきちんとしています。



1998 年から 2002 年までイスラーム関係研究者をはじめ、日本の各界、海外の識者を集めておこなわれた文部省科学研究費補助金創成的基礎研究「現代イスラーム世界の動態的研究——イスラーム世界理解のための情報システムの構築と情報の蓄積」(略称：イスラーム地域研究)の成果を集めたシリーズ。現在のイスラーム研究の関心と問題の所在を知ることができるでしょう。

1	佐藤次高編	『イスラーム地域研究の可能性』	2003	ISBN:4130341812	 
2	小松久夫, 小杉泰編	『現代イスラーム思想と政治運動』	2003	ISBN:4130341820	 
3	私市正年, 栗田禎子編	『イスラーム地域の民衆運動と民主化』	2004	ISBN:4130341839	 
4	三浦徹, 岸本美緒, 関本照夫編	『比較史のアジア——所有・契約・市場・公正』	2004	ISBN:4130341847	 
5	酒井啓子, 白杵陽編	『イスラーム地域の国家とナショナリズム』	2005		 
6	加藤博編	『イスラームの性と文化』	2005		 
7	赤堀雅幸, 東長靖, 堀川徹編	『イスラームの神秘主義と聖者信仰』	2005		 
8	林佳世子, 榎屋友子編	『記録と表象——史料が語るイスラーム世界』	2005		 

講座
世界歴史
新版
岩波書店
1997-2000



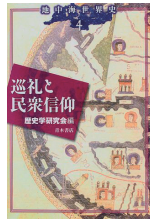
歴史学界の総力をあげて1997年から2000年にかけて発行された世界史全体を扱う論集。時代別地域別に扱う巻とテーマ別に扱う巻にわかれています。テーマ別に扱う巻は、上に挙げた中では1, 5, 12, 15, 19, 22, 25, 28の各巻で地域や時代を超えてテーマを扱います。各巻の論文は、総説的テーマを扱う「構造と展開」が一本、周縁部をあつかう「境域と局所」が三から四本、個々のテーマについての「論点と焦点」に分かれ、さらにテーマ巻では「交流と比較」数本が追加されます。イスラーム世界を中心的に扱う10, 14, 21は最低限読んでおいて損はないでしょう。

1	『世界史へのアプローチ』	1998	ISBN:4000108212	a	×
5	『帝国と支配——古代の遺産』	1998	ISBN:4000108255	a	×
6	『南アジア世界・東南アジア世界の形成と展開——15世紀』	1999	ISBN:4000108263	a	×
7	『ヨーロッパの誕生』	1998	ISBN:4000108271	a	×
8	『ヨーロッパの成長』	1998	ISBN:400010828X	a	×
10	『イスラーム世界の発展——7-16世紀』	1999	ISBN:4000108301	a	×
11	『中央ユーラシアの統合——9-16世紀』	1997	ISBN:400010831X	a	×
12	『遭遇と発見——異文化への視野』	1999	ISBN:4000108328	a	×
13	『東アジア・東南アジア伝統社会の形成——16-18世紀』	1998	ISBN:4000108336	a	×
14	『イスラーム・環インド洋世界——16-18世紀』	2000	ISBN:4000108344	a	×
15	『商人と市場——ネットワークの中の国家』	1999	ISBN:4000108352	a	×
16	『主権国家と啓蒙』	1998	ISBN:4000108360	a	×
18	『工業化と国民形成』	1998	ISBN:4000108387	a	×
19	『移動と移民——地域を結ぶダイナミズム』	1999	ISBN:4000108395	a	×
20	『アジアの＜近代＞』	1998	ISBN:4000108409	a	×
21	『イスラーム世界とアフリカ——18世紀末-20世紀初』	1998	ISBN:4000108417	a	×
22	『産業と革新』	1998	ISBN:4000108425	a	×
23	『アジアとヨーロッパ』	1998	ISBN:4000108433	a	×
24	『解放の光と影』	1998	ISBN:4000108441	a	×
25	『戦争と平和』	1998	ISBN:400010845X	a	×
26	『経済成長と国際緊張』	1998	ISBN:4000108468	a	×
27	『ポスト冷戦から21世紀へ』	1998	ISBN:4000108476	a	×
28	『普遍と多元』	1998	ISBN:4000108484	a	×
別巻	『総索引・総目次』	?	?	a	×

歴史学研究会編

地中海世界史

青木書店
1999, 2000



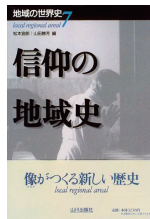
地中海学会の活動の成果を「地域としての地中海世界史」としてまとめた論集。東洋史と西洋史の壁をこえた執筆者の構成が特徴的です。

- | | |
|---|----------------|
| 2 | 『多元的世界の展開』 |
| 3 | 『ネットワークの中の地中海』 |
| 4 | 『巡礼と民衆信仰』 |
| 5 | 『社会的結合と民衆運動』 |

1999		a	×
1999	ISBN:4250990230	a	×
1999	ISBN:4250990281	a	×
1999	ISBN:4250990435	a	×

地域世界史

山川出版社
1997-2000



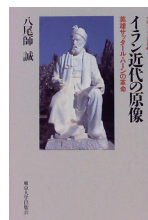
「地域史」という観点からの論文をテーマ別に振り分けた論集。必要なときは各巻の必要な論文だけ読めばいいでしょうが、各巻通読すると地域のイメージが広がり絡まり合います。

- | | | |
|----|-------------|-----------|
| 1 | 濱下武志, 辛島昇編 | 『地域史とは何か』 |
| 2 | 辛島昇, 高山博編 | 『地域のイメージ』 |
| 3 | 辛島昇, 高山博編 | 『地域の成り立ち』 |
| 4 | 川田順造, 大貫良夫編 | 『生態の地域史』 |
| 5 | 松本宣郎, 山田勝芳編 | 『移動の地域史』 |
| 6 | 佐藤次高, 福井憲彦編 | 『ときの地域史』 |
| 7 | 松本宣郎, 山田勝芳編 | 『信仰の地域史』 |
| 8 | 川田順造, 石毛直道編 | 『生活の地域史』 |
| 9 | 佐藤次高, 岸本美緒編 | 『市場の地域史』 |
| 10 | 木村靖二, 上田信編 | 『人と人の地域史』 |
| 11 | 濱下武志, 川北稔編 | 『支配の地域史』 |
| 12 | 木村靖二, 長沢栄治編 | 『地域への展望』 |

1997	ISBN:4634442108	a	×
1997	ISBN:4634442205	a	×
2000	ISBN:4634442302	a	×
2000	ISBN:463444240X	a	×
1998	ISBN:4634442507	a	×
1999	ISBN:4634442604	a	×
1998	ISBN:4634442701	a	×
2000	ISBN:4634442809	a	×
1999	ISBN:4634442906	a	×
1997	ISBN:4634443007	a	×
2000	ISBN:4634443104	a	×
2000	ISBN:4634443201	a	×

中東イスラム世界

東京大学出版会
1995-1998



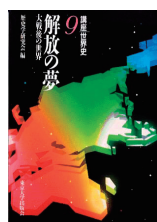
各冊とも一冊で論文としての体を為すシリーズ。論集に入れるかどうか考えましたが、一応いれておきました。興味のあるテーマのものがあれば、参考文献の宝庫となります。

- | | | |
|---|------|------------------------------------|
| 1 | 山内昌之 | 『イスラムとロシア——その後のスルタンガリエフ』 |
| 2 | 杉田英明 | 『日本人の中東発見——遠近法のなかの比較文化史』 |
| 3 | 大塚和夫 | 『テキストのマフディズム——スーダンの「土着主義運動」とその展開』 |
| 4 | 高山博 | 『神秘の中世王国——ヨーロッパ, ビザンツ, イスラム文化の十字路』 |
| 5 | 高橋和夫 | 『燃えあがる海——湾岸現代史』 |
| 6 | 加藤博 | 『文明としてのイスラム——多元的社会叙述の試み』 |
| 7 | 小松久男 | 『革命の中央アジア——あるジャディードの肖像』 |
| 8 | 内藤正典 | 『アッラーのヨーロッパ——移民とイスラム復興』 |
| 9 | 八尾師誠 | 『イラン近代の原像——英雄サッタール・ハーンの革命』 |

1995	ISBN:4130250213	a	×
1995	ISBN:4130250221	a	×
1995	ISBN:413025023X	a	×
1995	ISBN:4130250248	a	×
1995	ISBN:4130250256	a	×
1995	ISBN:4130250264	a	×
1996	ISBN:4130250272	a	×
1996	ISBN:4130250280	a	×
1998	ISBN:4130250299	a	×

講座 世界史

東京大学出版会
1995, 1996

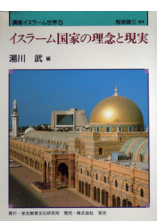


1	『世界史とは何か——多元的世界の接触の転機』	1995	ISBN:4130250817		
2	『近代世界への道——変容と摩擦』	1995	ISBN:4130250825		
3	『民族と国家——自覚と抵抗』	1995	ISBN:4130250833		
4	『資本主義は人をどう変えてきたか』	1995	ISBN:4130250841		
5	『強者の論理——帝国主義の時代』	1995	ISBN:413025085X		
6	『必死の代案——期待と危機の20年』	1995	ISBN:4130250868		
7	『「近代」を人はどう考えてきたか』	1996	ISBN:4130250876		
8	『戦争と民衆——第二次世界大戦』	1996	ISBN:4130250884		
9	『解放の夢——大戦後の世界』	1996	ISBN:4130250892		
10	『第三世界の挑戦——独立後の苦悩』	1996	ISBN:4130250906		
11	『岐路に立つ現代世界——混沌を恐れるな』	1996	ISBN:4130250914		
12	『わたくし達の時代』	1996	ISBN:4130250922		

いきなりモンゴルに始まり、第一巻でオスマン朝までカバーしてしまう近代に重点をおいた論集通史。各地域史の集成ではなく、こゝまで「世界史」の共時性を感じることのできるシリーズはありません。ぜひ一度通読して欲しいと思います。

講座 イスラーム世界

栄光教育文化研究所
1994, 1995



1	片倉もとこ編	『イスラーム教徒の社会と生活』	1994	ISBN:4946424849		
2	後藤明編	『文明としてのイスラーム』	1994	ISBN:4946424873		
3	堀川徹編	『世界に広がるイスラーム』	1995	ISBN:4946424881		
4	竹下正孝編	『イスラームの思考回路』	1995	ISBN:494642489X		
5	湯川武編	『イスラーム国家の理念と現実』	1995	ISBN:4897110009		
別巻	三浦徹, 東長靖, 黒木英充編	『イスラーム研究ハンドブック』	1995	ISBN:4897110017		

地域や時代ではなく「イスラーム」を軸としてまとめられた論集。思想から歴史、生活まで幅広い分野をおさえています。別巻はもはやなくてはならぬ一冊となりました。

世界史への 問い

岩波書店
1989, 1991

1	後藤明編	『歴史における自然』	1989	ISBN:4000040413		
2	川北稔編	『生活の技術生産の技術』	1990	ISBN:4000040421		
3	濱下武志編	『移動と交流』	1990	ISBN:400004043X		
4	二宮宏之編	『社会的結合』	1989	ISBN:4000040448		
6	柴田三千雄編	『民衆文化』	1990	ISBN:4000040464		
7	小谷汪之編	『権威と権力』	1990	ISBN:4000040472		
8	板垣雄三編	『歴史のなかの地域』	1990	ISBN:4000040480		
9	川北稔編	『世界の構造化』	1991	ISBN:4000040499		
10	板垣雄三編	『国家と革命』	1991	ISBN:4000040502		

岩波書店のテーマ別歴史論集。各巻に一本から二本のイスラーム関連論文が収められています。同じテーマで他地域を扱う論文も収められているので、比較の視座が得られるでしょう。

講座
東洋思想

岩波書店
1988,89



イスラーム思想のエッセンスが二冊に凝縮されています。歴史的展開と法学，哲学，神学の論点がバランスよく記述されています。もっとも思想系が苦手ですとつらい思いをします。

3	『イスラーム思想 1——イスラーム思想史，イスラーム思想の展開』	1988	ISBN:4000103237		
4	『イスラーム思想 2——イスラーム思想の特質』	1989	ISBN:4000103245		

講座
イスラム

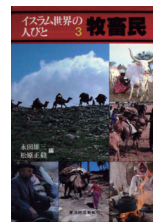
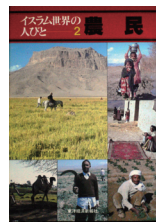
筑摩書房
1985,86

「講座イスラーム世界」と似たような意図をもったシリーズ。こちらは『イスラーム世界』に連載された講座を再編成したものです。なお、各巻末に若干の解説付きの文献案内があります。

1	中村廣治郎編	『イスラーム—思想の営み』	1985	[三田所蔵]		
2	森本公誠編	『イスラーム—転変の歴史』	1985	[三田所蔵]		
3	佐藤次高編	『イスラーム—社会のシステム』	1986	[三田所蔵]		
4	板垣雄三編	『イスラーム—価値と象徴』	1986	[三田所蔵]		

イスラーム
世界の
人びと

東洋経済新報社
1984



生活類型ごとに編まれた各巻からなる人類学や社会史の方面からの論集。宮本常一も加わった東京外大 AA 研による「アジア・アフリカにおけるイスラーム化と近代化に関する調査研究」のまとめです。なかなか目にする事の出来ない貴重な論考を多く含みます。また各巻テーマに沿った文献案内が巻末にあります。

1	上岡弘二，中野暁雄ほか編	『総論』	1984	ISBN:449281261X		
2	佐藤次高，富岡倍雄編	『農民』	1984	ISBN:4492812628		
3	永田雄三，松原正毅編	『牧畜民』	1984	ISBN:4492812636		
4	家島彦一，渡辺金一編	『海上民』	1984	ISBN:4492812644		
5	三木亘，山形孝夫編	『都市民』	1984	ISBN:4492812652		

前嶋信次編
オリエント史
講座

学生社
1982-86

やたらと古くなっている感じがして，実はまだあまり古くなっていない論集。「オリエント」という地域が焦点です。したがって，東方すぎたり西方すぎたりするとあまり論文が載っていません。

4	『カリフの世界』	1982	[三田所蔵]		
5	『スルタンの時代』	1986	[三田所蔵]		
6	『アラブとイスラエル』	1986	[三田所蔵]		

世界史 女性史

評論社
1975-78

女性史というジャンルからの論集。マムルーク朝の初代スルタン、シャッジャル・トゥッドウルの伝承なども載っていてなかなか貴重な二冊です。13巻が前近代、14巻が近代～現代です。

- | | |
|----|-------------|
| 13 | 『東方の輝き』 |
| 14 | 『閉ざされた世界から』 |

1977	ISBN:4566053628		✕
1977	ISBN:4566053636		✕

講座 世界歴史 旧版

岩波書店
1969-71

1970年代はじめの歴史学集大成。発展段階論にしばられているような記述も散見できますが、敬遠するにはあたりません。実証研究の基礎がほぼ固まったのがこのころですから、いまでも研究の出発点となしう論文が数多く収められています。

7	『中世 1 —— 中世ヨーロッパ世界 (1)』	1969	[三田所蔵]		✕
8	『中世 2 —— 西アジア世界』	1969	[三田所蔵]		✕
10	『中世 4 —— 中世ヨーロッパ世界 (2)』	1970	[三田所蔵]		✕
13	『中世 7 —— 内陸アジア世界の展開 (2) ; 南アジア世界の展開』	1971	[三田所蔵]		✕
15	『近代 2 —— 近代世界の形成 (2)』	1971	[三田所蔵]		✕
20	『近代 4 —— 近代世界の展開 (4)』	1971	[三田所蔵]		✕
21	『近代 5 —— 近代世界の展開 (5)』	1971	[三田所蔵]		✕
22	『近代 9 —— 帝国主義時代 (1)』	1971	[三田所蔵]		✕
23	『近代 10 —— 帝国主義時代 (2)』	1971	[三田所蔵]		✕
24	『現代 1 —— 第一次世界大戦』	1971	[三田所蔵]		✕
25	『現代 2 —— 第一次世界大戦直後』	1971	[三田所蔵]		✕
27	『現代 4 —— 世界恐慌期』	1971	[三田所蔵]		✕
28	『現代 5 —— 1930 年代』	1971	[三田所蔵]		✕
29	『現代 6 —— 第二次世界大戦』	1971	[三田所蔵]		✕
30	『現代歴史学の課題』	1971	[三田所蔵]		✕

講座 東洋思想

東京大学出版会
1967

イスラーム思想の論集。ただし後の岩波のものとは違って、それほど「思想思想」していませんので、意外と読みやすいかもしれません。といっても、決してレヴェルが低いわけではないので、良い編集がなされたと考えるべきでしょう。やや古いですが、読んで損はない一冊です。

『イスラームの思想』	1967	[白楽所蔵]		✕
------------	------	--------	---	---

■ 辞典を「読む」

最近の辞典は「読む辞典」という概念が導入され、個々の項目を読んでもそれなりにおもしろく読めるようになっていきます。何の気なく、暇なときにでもペラペラとめくりましょう。そして、ある項目を読んだら、その中で登場する他の語を調べ……とどんどんリンクしていくと、楽しく時間をつぶせしながら勉強できます。これまで定番といえたのは、平凡社の『イスラム事典』だけでしたが、2001年9月11日のテロのあと、2002年中に『イスラム事典』の増補改訂版『新イスラム事典』を含めて、総合的な事典が三冊も発行されました。まったく古くなっていない事典を手にとることができるのも魅力的です。

2002年の一連の事典の改題を書いた工具書は出ていないので、拙いながら私が解説を試みます。なお本節は網羅的な工具類の紹介を試みているわけではありません。最低限の手近なものとはイスラームには直接関係ないものだけを紹介します。さらに、さまざまなものを知りたいければ、第2章で紹介する「イスラーム研究ハンドブック」などの工具書の項を参照してください。辞典類は原則として、新館1階レファレンスカウンター向かって右、三つ目の書棚の手前側、一番奥にあります。

『イスラム事典』

ながく定番となった事典です。イスラームに関する基本事項を、簡潔かつきちんと説明している事典です。初学者がまず参照すべきは、この事典です。また「読む」という面から見ても、丁寧な記述でわかりやすい事典です。

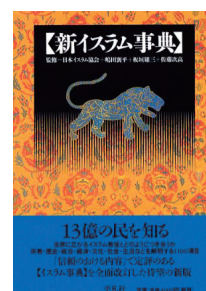
この事典には1984年発行の「旧版」といわれる『イスラム事典』と2002年発行の「新版」といわれる『新イスラム事典』があります。2002年の新版は、平凡社の経営危機とテロ後の緊急出版という困難をのりこえてのものです。このとき増補された項目は300あまり。巻頭の便利な「総説」も増補されています。さらに既存の項目もかなり修正されています。この20年間弱の日本におけるイスラーム研究の進展がうかがわれます。なお、旧版に関しては、東京大学東洋文化研究所がインターネット上で「[イスラム事典検索ページ](#)」としてデータベースを提供していますので、オンラインで手軽に利用できます。

全般に歴史的項目（特に政治史、社会史）に強い印象を受けます。旧版では、現代関連は壊滅的でしたが（出版年からいって当然）、新版ではかなり充実してきていますし、アフリカや東南アジア、地中海などについての増補が数多くあります。また社会史についての充実ぶりは、素晴らしいものです。

旧版と新版をどちらを使うか。まず旧版にあって、新版で消滅した項目はあまりありません。記述についても、旧版のほうはどう考えてもいいだろうというものもほとんどありませんし、ほとんどが改訂されています。したがって、これから手にするなら新版を選ぶべきです。新版の難をいえば4,400円と旧版より高いこと、そして紙が厚いことです。しかしイスラームを学ぶ以上持っていないのはどうか、というレベルの事典ですので、買ってください。より詳しいことは、三浦徹さんによる紹介▼を参照してください。

『岩波イスラーム辞典』

例のテロ後に新たに発行された辞典。項目数は『イスラム事典』の4倍ほどになり、あえて「辞典」となっている意味はそこにあります。近現代に強い傾向があり、現代



日本イスラム協会編
『新イスラム事典』
平凡社、2002。
ISBN:4582126332



日本イスラム協会編
『イスラム事典』
平凡社、1984。
ISBN:4582126014

三浦徹「新イスラム事典について」『イスラム世界』59, 2002.

の組織や政党、人名はかなり綿密に挙げてあります。特に現代政治は『イスラム事典』（旧版）では刊行年から当然湾岸戦争さえも含まれないわけで、我々はこの分野にかかわる事典をはじめて手にしたといつてよいでしょう。どちらにしろ、とにかく詳細です。全部の項目を読むのに一週間かかりました。では、こまかいことを。

概念的な項目が非常に充実しています。思想史や法学・モラルエコノミーの関連項目は、現代とのつながりも説明しており『イスラム事典』（旧版）と比べても大変詳しいものといえるでしょう。さらに、非アラブ圏への目の配り方が細やかです。特に中央アジアが充実しています。非イスラム世界におけるムスリムについての記事が多いのも特色といえるでしょう。その他、意外に建築史・美術史、特に陶器とモスク建築に関して詳しいです。また、どう考えても山内さんの趣味ですが、日本に関連する項目が異様に詳細です。「新井白石」とか「乃木希典」なんて項が立てられています。付け加えて、表記・転写法が比較的厳密です。

一方で欠点は、前近代の歴史的な事件についての項目は、かなり端折ってある感じがすること、各記事末尾の参照項目や索引については不備が目立つことでしょうか。関連項目でも違う執筆者の場合、参照が設定されていないことがありますし、巻末索引は項目一覧にすこし足したもの、という感じです。よって「読む」にはあまり向いていないといえるでしょう。そして、高いです。需要を考えればこの程度かもしれませんが、おなじ岩波の「現代中国事典」が1457ページで6600円であることを考えると、1257ページで7500円は少々考えものです。装丁はきれいですけど。

総じて、持っておいて損はない辞典という感じです。ただし短所もないわけではないとおもうので「イスラム事典」と併せて参照（特に歴史の分野での工具としての使い勝手からいえば、少々ものたりない）というスタイルが推奨されます▼。「イスラム事典」（旧版）がイスラム史の事典としての面が顕著であったとすれば、「岩波イスラム辞典」は地域研究としての側面が強いといつてよいでしょう。

『イスラム世界事典』

装丁は辞典というより本。編者を見れば分かりますとおり、人類学方向にめったやたらと強いです。コンセプトは「生きているイスラム」「生活のイスラム」です。あえて「イスラム世界」となっているのは、そのあらわれでしょう。「クルアーン・コンクール」なんて見慣れない項目も立てられています。

歴史的な項目についても、砂漠の生活、衣服、都市システムなどのソフト面が非常によく記述されています。さらに「女性」などの関連の項目も充実しています。各項目ひとつひとつの文章がよく推敲されている感じがしており、写真、イラストが多く、割付も洒落ていて活字も読みやすいのが特徴です。したがって「読む」のにもっとも向いています。ただし、いまここを書いている時点で、私はまだそれほど使い込んでいませんので、大嘘が多いかもしれません。

The Encyclopædia of Islam

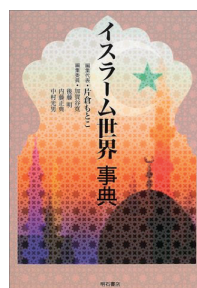
言わずとしれた最強の事典です。上記の和書の事典で探したい項目が見つからなければ、とつととこれに当たったほうが幸せになれます。また項目末尾に、その項目に関わる基本文献が挙げられているので、これも便利です。略称「エンサイクロペディア」というのはいかに基本的でよく使うものであるかを示しています。大学院生であれば「わかりません」という前に、とりあえずエンサイクロペディアにあたるのは常識となっています。

一度見ればわかるでしょうが、非常な大部で、刊行にも40年近くかかっています。



大塚和夫、小杉泰、小松久男、東長靖、羽田正、山内昌之編
『岩波イスラム辞典』
岩波書店、2002。
ISBN:4000802011

前掲の三浦さんの『新イスラム事典』の紹介によれば、本辞典では、『イスラム事典』旧版に項目がある場合、その項目についての記事の依頼は『イスラム事典』での執筆者にはしていないそうです。したがって本辞典とイスラム事典を併せ読むことの価値はより高くなると言えるでしょう。

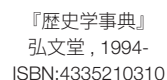


片倉もと子責任編集
『イスラム世界事典』
明石書店、2002。
ISBN:4750315478

これをまとめた CD-ROM が出ており、レファレンスカウンターに申し出れば使用することができますが、この CD-ROM は完成版ではないので最後のほうは入っていません。2005 年 7 月現在、出版元の Brill 社としてはメディアの提供ではなく Web 版での提供をメインとしたい模様で CD-ROM 版のメンテナンスはかなり適当で、東アジア言語版の Windows XP SP2 では動作しません。オンライン版の導入は現在図書館と交渉中です。

この事典は、一つの巻がいくつかの分冊として何回かに分けて発行されます。2005年7月現在、三田では13巻第1分冊までそろっており、Industrializationの途中(分冊の途中で文章が切れています)まで見るすることができます。またサンプルになります。が有料で提供しているWeb版の一部を無料で閲覧することができます。

1. 交換と消費；2. からだとくらし；3. かたちとしるし；4. 民衆と変革；5. 歴史家とその作品；6. 歴史学の方法；7. 戦争と外交；8. 人と仕事；9. 法と秩序；10. 身分と共同体；11. 宗教と学問；12. 王と国家；1?. 所有と生産（未刊）；1?. コミュニケーション（未刊）；1?. ものとなぜ（未刊）；別巻・総索引（未刊）。



『事典 イスラームの都市性』亜紀書房, 1992. ISBN:4750592099

「イスラーム地域研究」の一回前の大プロジェクトの成果。五十音順に並んでいるわけではなく、さまざまな角度から都市性を分析する事典です。イスラーム世界の都市だけでなく、「平城京」とか「長崎とムスリム商人」とかいろいろな項があります。なお、これは社会学の都市の分類なので、地下一階、階段を降りて右折、右折で、閲覧席を抜けて奥に行った左側のところにあります。

■ 目的なく雑誌を読む

目的の論文をみるためでなく、ただばらばらと専門誌をめくるともしかしたら興味のあることが載っているかもしれません。イスラーム研究と関連する主な雑誌は日本語では次の通りです。あわせて総目次が閲覧できるものについては、その所在を示します。

和文

『オリエント』 『日本オリエント学会月報』	日本オリエント学会	1955-	ISSN:00305219
『イスラム世界』	日本イスラム協会	1963-	[三田所蔵：三階東]
『日本中東学会年報』	日本中東学会	1986-	ISSN:09137858
『東方学』	東方学会	1951-	ISSN:04957199
『中東研究』 『中東事情』 『中東通報』 『月刊中東研究』	中東調査会	1957-	ISSN:09105867
『東洋文化』	東京大学東洋文化研究所	1950-	ISSN:05640202
『東洋文化研究所紀要』	東京大学東洋文化研究所	1943-	ISSN:05638089
『西南アジア研究』	京都大学	1957-	ISSN:09103708
『東洋史研究』	京都大学	1935-	ISSN:03869059
『東洋学報』	東洋協會調査部 東洋文庫	1911-	ISSN:03869067
『内陸アジア史研究』	内陸アジア史学会	1984-	ISSN:09118993
『アジア・アフリカ言語文化研究』	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	1968-	ISSN:03872807
『中東研究所紀要』	国際大学	1985-1994	
『中近東文化センター研究会報告』	中近東文化センター	1980-	
『地中海学研究』	地中海学会	1978-	[三田所蔵：三階西]
『アッサラーム』	イスラミックセンター・ジャパン	1976-	[三田所蔵：三階東]

欧文

欧文でも主なものを挙げます（つまり私が参考文献中でよく目にするもの）。

Middle East Journal	MEJ	1947-	ISSN:00263141
Middle Eastern Studies	MES	1964-	ISSN:00263206
International Journal of Middle East Studies	IJMES	1970-	ISSN:00207438
Studia Islamica		1953-	ISSN:05855292
Der Islam		1910-	ISSN:00211818

■ イスラーム史じゃない本も見てみる

本節は 100% 個人の趣味です。強制するつもりはありません。思いついたら足していきます。といっても、定番ものや、ある程度評判になったものを書いておきます。

民族と国民国家

イスラーム史を学んでいると「民族」とか「国家」とか「伝統」とかの問題がことあるごとに顔を出すのですが、そういう言葉を使うときには一定の「常識」というか「前提」というようなものを知っておく必要があります。ここでは、そのような問題に関わる基礎文献を紹介します。方法論的な整理をしておきましょう。では各書の紹介。

①『想像の共同体』はあまりに有名な基本中の基本。国民国家論の嚆矢となった本で、これを知らないと馬鹿にされる、というレベルです。私としては、国民国家論はもはや食傷気味なのですが、これを読まないで国民国家論を馬鹿にするようなアホなネット右翼の真似をする必要はありません。そして注意深く読めば、本書を論拠として（論拠としたふりをして）国家をひたすら攻撃するバカな無政府主義者の嘘も見抜けるでしょう。②『創られた伝統』は著名な歴史家ホブズボウムの畢竟の名著。伝統とされているものが、実はせいぜいが百年ちょっとしかさかのぼらないことが多いということを、高地スコットランドを中心に、史料を博搜して説明しています。日本でいえば、我々が時代劇を見て感じるリアリティは創られたものに近いということがわかります。③『ネイションとエスニシティ』は国民国家論のエッセンスともいべきもので、一冊だけ読むというならこれでしょう。かなりバランスよくまとまっています。④『民族とナショナリズム』はやや古い感じもしますが、民族ナショナリズムと政治的現実の関係を活写します。イスラームともやや関係があってマグリブの話がよく出てきます。⑤『オリエンタリズム』は見方を変えて、19 世紀的「オリент」研究が陥った罠、そして現在の我々にも通じるフィルターとか色眼鏡のようなものがどのようなものであるかを示します。物事を見るときになんらかの偏りがあるのはあたりまえですが、この偏りに無意識でいるとどこまでも深い陥穽に陥ってしまいます。やや難解かつ晦渋ですががんばって読んでください。我々の扱う地域を考えれば必読ですし読みの力もつきます。⑥『国境の越え方』は日本語で一つとるならこれというもの。欧米ではなく日本を基礎として考えるとどうなるか、がよくわかります。⑦『エスニシティの政治社会学』は政治社会学方面からの論及。やや情緒的、あるいは高度に抽象的な物言いを現実に即した形で理論化します。

概ね一番手に入れやすいものをリストしておきます。ただし KOSMOS-OPAC II へのリンクは慶應義塾所蔵の版にはってあります。また洋書の場合は原語初版も併記します。



①	B. アンダーソン	白石さやか, 白石隆訳	『想像の共同体』	リプロポート	1987	
	Benedict Anderson		Imagined Communities	NTT 出版 (新訂増補)	1997	ISBN:487188516X
②	E. ホブズボウム, T. レンジャー	前川啓治訳	『創られた伝統』	紀伊国屋書店	1992	ISBN:4314005726
	Eric Hobsbawm and Terence Ranger		The Invention of Tradition	Cambridge University Press	1983	
③	A. D. スミス	巢山靖司ほか訳	『ネイションとエスニシティ』	名古屋大学出版会	1996	ISBN:4815803552
	A. D. Smith		Nations and Ethnicity	Oxford	1982	
④	E. ゲルナー	加藤節 監訳	『民族とナショナリズム』	岩波書店	2000	ISBN:4000021966.
	E. Gelner		Nations and Nationalism	Cambridge	1988	
⑤	E. サイド	板垣雄三, 杉田英明監修	『オリエンタリズム』 上巻	平凡社	1993	ISBN:4582760112
	Edward Said		Orientalism	(平凡社ライブラリー) 下巻 New York	1993 1976	ISBN:

⑥ 西川長夫	『国境の越え方 ——国民国家論序説』	平凡社 (平凡社ライブラリー)	2001	ISBN:4582763804
⑦ 関根政美	『エスニシティの政治社会学 ——民族紛争の制度化のために』	名古屋大学出版会	1994	ISBN:4815802297

漂う「日本」と日本のあいだ

我々は、日本ではない場所の、それも違った時代のことを考えようとしています。そうして考えると自然に「ここが日本と違う」という比較の発想が出てくるでしょう。しかしその時言及した「日本」、我々の知っている「日本」というものが、果たしてどこまで有効な視座なのか。40年前の日本は「日本」だったのか。私たちの意識とイメージの狭間に漂う「日本」像と日本の間に橋を架けます。

⑧『忘れられた日本人』はおそらく日本を歩き尽くした最後の民俗学者、宮本常一の有名な一冊。山の民や島の人々、流通にかかわる人びとなどからの昭和初期から中期の聞き書き中心です。その染みこむような筆致とあいまって、我々が忘れてきた、あるいは知ろうとしなかった日本の姿があらわに浮き上がってきます。近年、再評価が著しいので読んでおいて損はありません。⑨『日本残酷物語』は宮本常一をはじめとする民俗学者、歴史学者、社会学者、作家らがまとめた『忘れられた日本人』の近世・近代版ともいえる内容。タイトルが想像させるスプラッタな内容のものではありません。その語る残酷とは暮らしの中の残酷、すなわち天災、病、地勢、権力といったものです。そしてそのような残酷のなかにも人びとはたくましく生きてきたのでした。もちろん時代的制約はあって、権力を無限定に圧制し搾取するもの、民衆はあくまで無辜の存在と規定するような記述はあります。しかしそれ以上に、この日本に、本当にさまざまな環境があり、さまざまな人びとが生きてきたのだということを知る価値は小さくありません。⑩『単一民族神話の起源』は日本人が日本人をどのようにして見つめてきたか、そしていかにして単一民族神話が生まれたのかという問題に正面から扱った本塾大学総合政策学部助教授の小熊氏の比較的新しい意欲作（修士論文！）です。⑪『日本とは何か』は最近の講談社『日本の歴史』シリーズの00巻。故網野善彦氏の日本論のエッセンスともいえるものです。天皇、東と西、稲作と流通など、私たちが学んだ日本と近年の歴史学の成果の間隙を埋めます。シリーズ全体としても推薦します。

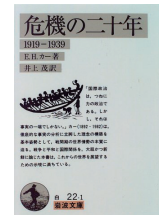
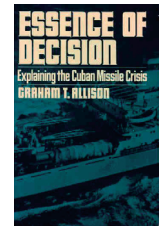


⑧ 宮本常一	『忘れられた日本人』	未来社	1984	ISBN:400331641X
		岩波書店（岩波文庫）	1984	
⑨ 宮本常一、山本周五郎、 梶西光速、山代巴監修	『日本残酷物語』（全5巻）	平凡社	1959	
		平凡社	1972	
	『貧しき人びとの群れ』		1995	
	『病める大地』		1995	
	『忘れられた土地』	平凡社 (平凡社ライブラリー)	1995	
	『鎖国の悲劇』		1995	
⑩ 小熊英二	『単一民族神話の起源 ——「日本人」の自画像の系譜』	新曜社	1995	ISBN:4788505282
⑪ 網野善彦	『日本とは何か』 (日本の歴史 00巻)	講談社	2001	

国際政治のアクターたち

東洋史専攻でも、意外と近現代をテーマとする人たちが多くのように思えます。世界が分割されてゆく中で、イスラーム世界もまた国際政治と無縁ではありませんでした。表層から見れば、国際政治は「国家対国家」のように国家がアクターとなる舞台です。たとえば、大英帝国とオスマン帝国というように。しかし国際政治、特に近現代のそれは、膨大な資料とともに、国家の政策を決定した人びとや省庁など、さらに細かいアクターたちの行動まで迫れるのです。たとえばイギリスの対中東政策で言えば外務省、植民省、インド政庁、陸軍など、それぞれの省庁が、それぞれ別々の利害を追求し、独自の政策を主張したのであって、必ずしも一枚岩の政策を追求したわけではありません。むしろそのせめぎ合いから英国の政策が形成されていったとも見る事ができるのです。また国際経済という巨大なアクターが目に見えるかたちで立ちはだかつてくるのもこの時代からです。

⑫『決定の本質』はキューバ危機における合衆国の政策決定を三つのアプローチ、すなわち政策決定者のパーソナリティ、省庁ごとの組織利害、軍事的パワーバランスから追求して、どのようにして政策が決定されたかを考えます。国際政治学の精華ともいべき著者 27 歳の力作です。⑬『危機の二十年』は国際政治が国際政治として完全に構造化されてゆく世界を、しかし生身の人びとがどろどろに絡み合って第二次世界大戦にいたる過程を通して描く、国際政治学の原点ともいべき作品です。カーは政治学の分野では国際政治学の祖として扱われます。決して「史学概論」の教科書の著者としてのみ記憶されるべきではありません！



	G. T. アリソン	宮里政玄訳	『決定の本質』	中央公論社	1977	ISBN:4120007340
⑫	Graham T. Allison		<i>Essence of Decision: Explaining the Cuban Missile Crisis</i>	Boston : Little, Brown	1971	(ISBN:0321013492)
	E. H. カー	井上茂訳	『危機の二十年——1919-1939』	岩波書店	1952	
⑬	Edward Hallett Carr		<i>The twenty years' crisis 1919-1939: an introduction to the study of international relations</i>	岩波書店（岩波文庫） London: Macmillan	1996 1939	ISBN:4003402219 (ISBN:0333644697)

あの頃——時空間へのまなざし

歴史学はある時空間を学び、理解しようとする側面を持っています。いまから 20 年ほど前から日本の学界ではフランスの「アナル学派」の考え方が注目されるようになりました。そして雨後の筍のようにアナル学派の書物が翻訳され、紹介されました。それ以降、共時性とか心性というものが大切にされはじめたのです。ここではアナル派に限らず、ある時空間を切り取り、読み取ろうとする歴史の側面を紹介します。

⑭『地中海』はアナル学派の祖ともいえるブローデルのもっとも有名な著。フェリペⅡ 世時代の地中海が対象です。一種の博物誌的な点もあり当時の地中海を旅する気分にさせてくれます。時代が時代ですから、史料の読み込み不足とか勝手な解釈、自己流の世界観の押しつけなどもないではないのですが、スケールの大きな視野は楽しませてくれます。⑮『記録を残さなかった男の歴史』は現在のアナル派をリードするアラン・コルバンの一冊。コルバンはニオイなどこれまでほとんど注目されなかったテーマを中心に著書を量産していて、少々ついていけないところもありますが、本書は歴史を学ぶ人びとすべてにおすすめです。歴史には史料がつきものなのですが、

それが望みうるような形で残っていなかったり、つぎはぎしなければならないとき、我々はいかにして「歴史」を創らねばならないのでしょうか。本書はこの疑問に答えてくれます。アナール派からはなれて⑬『猫の大虐殺』はフランス大革命当時の心性を、ばかばかしい記述として見逃しがちな「猫の大虐殺」を発端に読み解いていきます。史料読解の鋭さが光ります。⑭『愛の空間』は江戸期の茶屋にはじまり現代のブティック・ホテルへとつながる自宅以外で枕を交わす空間の歴史を、主に建物の観点から考えます。時代の人びとの考え方があらゆる物事に影響するというよい例となっています。

⑬	F. ブローデル	浜名優美訳	『地中海』全5巻	藤原書店	1991-5	ISBN:4938661373
			環境の役割		2004	
			集団の運命と全体の働き 1		2004	
			集団の運命と全体の働き 2	藤原書店	2004	
			出来事、政治、人間 1		2004	
			出来事、政治、人間 2		2004	
⑭	Ferdinand Braudel		<i>La Méditerranée et le monde méditerranéen à l'époque de Philippe II</i>	Paris: Colin	1949	
⑮	A. コルバン	渡辺響子訳	『記録を残さなかった男の歴史——ある木靴職人の世界 1798-1876』	藤原書店	1999	ISBN:4894341484
⑯	Alain Corbin		<i>Le monde retrouvé de Louis-François Pinagot: Sur les traces d'un inconnu 1798-1876</i>	Paris: Flammarion	1998	ISBN:2082125203
⑰	R. ダーントン	海保真夫, 鷺見洋一訳	『猫の大虐殺』	岩波書店	1986	
				岩波書店 (同時代ライブラリー)	1990	ISBN:4002600173
⑱	Robert Darnton		<i>The great cat massacre and other episodes in French cultural history</i>	New York: Basic Books	1984	ISBN:0465027008
⑲	井上章夫		『愛の空間』	角川書店	1999	ISBN:4047033073

帝国を生きる

合衆国のイラク侵攻以来「帝国」論が盛んになっています。しかし、いったい「帝国」とは何なのでしょう。オスマン帝国の「帝国」と帝国主義の「帝国」あるいは新しい「帝国」は同じなのでしょう。じつは帝国の理念と現実、そして帝国の語られ方は、あまりに多様なのです。⑲『帝国とは何か』は歴史学の立場から、種々の帝国概念を読み解いていきます。いまの国境線とは違った、グラデーションのように徐々に薄まってゆく勢力圏がかさなりあう辺境を持つ帝国、そして前近代それは文明圏でもあったのです。⑳『ビザンツ——幻影の世界帝国』はイスラームの海に取り残された理念上の古代帝国、そして実態は都市国家であったマヌエルⅡ世治下のパラエオロゴス朝ビザンツを描きます。㉑『城下の人』にはじまる石光真清の四部作は近代の帝国、すなわち大日本帝国の辺境部の現実の手記です。そして人びとの頭に染みついた理念上の帝国とはどういうものたりえるのか、それを如実に示したのがSFの大家アイザック・アシモフの㉒『銀河帝国興亡史』のシリーズでしょう。㉓『帝国』は近年の帝国論の端緒となった書物。帝国主義の「帝国」と、前近代的な「帝国」のあり方の違い、そしてイメージとしては、この両者が混在して我々の中にあることが図らずも浮き彫りにされます。視点を変えて文化的・社会的な意味での「帝国」を想起させるのが㉔『マクドナルド化の世界』。想像をたくましくしても「イスラーム化」や「文明の移入」は具体的理解を拒みますが、私たちの身近にももしかしたら世界史的な文明の移入が起きているのかもしれない。

18	山内昌之ほか編	『帝国とは何か』	東京大学出版会		
19	根津由喜夫	『ビザンツ——幻影の世界帝国』	講談社 (講談社選書メチエ)	1999	ISBN:406258154X
20	石光真清	『城下の人』 『曠野の花』 『望郷の歌』 『誰のために』	龍星閣		[日吉所蔵]
21	A. アシモフ	岡部宏之訳 『銀河帝国興亡史』 全7巻	早川書房 (ハヤカワ文庫 SF)	1984	
22	A. ネグリ M. ハート	水嶋一憲ほか訳 『帝国——グローバル化の世界秩序とマルチチュードの可能性』	以文社	2003	ISBN:4753102246
	Antonio Negri, Michael Hardt	<i>Empire</i>	Harvard University Press	2000	ISBN:0674251210
23	G. リッツア	正岡寛司監訳 『マクドナルド化の世界——そのテーマは何か』	早稲田大学出版部	2001	ISBN:4657014137
	George Ritzer	<i>The McDonaldization Thesis: Explorations and Extensions</i>	Sage Pubns	1998	ISBN:0761955399

近代という冷たく燃える焰

われわれの生きる近代という時代は複雑怪奇、単純で表面的な考察を決して許さぬ世界です。にもかかわらず、近代に生きる我々が、前近代を見るとき、必ず近代のフィルターがかかっています。それは国民国家に代表される政治的イデオロギーのみならず、身体的社会的文明的……なありとあらゆるものの総体です。そのような近代をなんとか読み解こうとした人びとがいます。彼らの難解で複雑な考察はどうしてもわれわれ歴史学を学ぶ人びとを遠ざける抽象性を持っています。しかし近代の文脈とはいったい何なのか、この問いを避けて歴史を学ぶとしたら、歴史を学ぶ意義そのものはいったい何なのかということになってしまうのではないのでしょうか？

24『監獄の誕生』は近代の政治社会が、あらゆる監視のまなざしによって構成されているのではないか、という疑問に答える思考実験。案外読みやすい本です。25『エッフェル塔』は美学の観点から、建築にあらわれる近代の表象をエッフェル塔に求めて読み解きます。26『公共性の構造転換』は宮廷にあった「公」が近代にいたって社会のどのような場所に移動していったのか、そして「公」そのものがどのように変容したのかという政治・社会の根本ともなる事象を考察します。

24	M. フーコー	田村俤訳	『監獄の誕生——監視と処罰』	新潮社	1977	ISBN:4105067036
	Michael Foucault		<i>Surveiller et punir: naissance de la prison</i>	Paris: Gallimard	1975	
25	R. バルト	宗左近, 諸田和治訳	『エッフェル塔』	審美社 筑摩書房 (ちくま学芸文庫)	1979 1997	ISBN:4480083472
	Roland Barthes, André Martin		<i>La Tour Eiffel</i>	Paris: Delpire	1964	
26	J. ハーバーマス	細谷貞雄, 山田正行訳	『公共性の構造転換——市民社会の一カテゴリーについての探究』	未来社 未来社	1973 1994	ISBN:4624011236
	Jürgen Habermas		<i>Strukturwandel der Öffentlichkeit</i>	Neuwied, Berlin: Luchterhand	1965	

「未来」と「夢」

人びとの意志は歴史を作ります。未来への思い、実現したい夢。それは人びとにとっての理想であり、活動のエネルギーでした。こうして世界は「進歩」してゆくのです。しかしその未来や夢は万人が万人、共有できるものではなく、さまざまな衝突、融合、紆余曲折をへて時代は流れてゆきます。未来や夢が作り出そうとしたもの、そして作

り出されたもの。そこにまなざしを注ぐことがまた、未来と夢へとつながります。

②⑦『北の十字軍』は我々が思い描く十字軍、すなわち対イスラームの戦いとは異なる十字軍が存在していたことを教えてください。そして十字軍運動はヨーロッパ世界の再編成・拡大と同時に、人権意識の形成をももたらしました。十字軍の夢、そしてもたらした未来は予想以上に大きなものがあつたのです。

②⑧『江戸東京まちづくり物語』は、私たちの生きる街・東京という都市がどのようにして創られてきたのかを語るもっとも読みやすい概説です。この街は世界史的に見ても、巨大さ、機能性、変転のめまぐるしさといった点で稀有の街です。その存在感と生命を創り出したのはもちろん人びとです。今生きる空間の歴史はなお興味深いものを持っています。そして本書の叙述された時からすでに十数年、東京はまた新たな街になっています。何が変わり、何が変わらなかったのか、一步ごとに歴史は発見されます。

World Wide Web という言葉を聞いたことはあるでしょうか。「インターネットを見る」とき、アドレスでよくお目にかかる www は、実は World Wide Web の略語です▼。ティム・バーナーズ＝リーという一人の人間の夢だったものが、瞬く間に世界に広まり、もはやインフラストラクチャの一つにまでなりました。構想から実現まで、世界のあり方に影響を与えた本人の著②⑨『Web の創成』は実にエキサイティングな書物です。

文明の違いは摩擦をもたらすだけなのか。争うだけなのか。サミュエル・ハンチントン教授の『文明の衝突』を越えて、理解、いやせめて共存することはできないのか。2001 年は国際連合「文明の対話」年でした。③⑩『文明の対話』はこれを提唱したイラン・イスラーム共和国前大統領セイイェド・モハンマド・ハータミー師の国連演説です。「悪の枢軸」の首領の配下がこういうことを言い出すのはどうしてなのか。さらに対話にしても、世界を分明で分割しようという考え方があるのはなぜか。思考停止に陥る前に確認しておきたいことがあります。

どうでもいいといえばどうでもいいのですが、World Wide Web の規格を管理するのが World Wide Web Consortium (W3C) です。本塾大学は世界に 3 つしかない W3C ホストの 1 つです。

②⑦	山内進	『北の十字軍 ——「ヨーロッパ」の北方拡大』	講談社 (講談社選書メチエ)	1997	ISBN:4062581124
②⑧	田村明	『江戸東京まちづくり物語 ——生成・変動・歪み・展望』	時事通信社	1992	ISBN:4788792095
②⑨	T. バーナーズ＝ リー	高橋徹監訳 『Web の創成 —— World Wide Web はいかにし て生まれどこに向かうのか』	毎日コミュニケーションズ	2001	ISBN:4839902879
	Tim Berners-Lee, Mark Fischetti	<i>Weaving the Web : the original design and ultimate destiny of the World Wide Web by its inventor</i>	New York : HarperCollins	1999	ISBN:0062515861
③⑩	M. ハタミ	平野次郎訳 『文明の対話』	共同通信社	2001	ISBN:4764104822
	Mohammad Khatami	<i>Islam, Liberty and Development</i>	Global Academic Publishing	1998	ISBN:188305883X

ネタを ふかめる

ネタを見つけたら
関連する知識を調べます。
ネタを見つけても
先行研究を熟知しなければ
「車輪の再発明」を
することになります。
ネタを深める、
言い換えれば
関連文献を見つけることが
重要です。

図書館をうろつく

慶應義塾図書館は難解な哲学から UFO ネタの史料までとりそろえて、さまざまな好奇心に応えてくれます。それだけにシステムを知らないと、関係ない本に囲まれ宏漠たる沙漠にひとり佇むかのような印象を得ることになるでしょう。慶應義塾図書館のシステムを概説します。

概説書をあさる

いきなり細かい小難しいテーマにとりかかるのはとても難しいことです。特に歴史は、細々とした一つ一つの出来事と世界レベルの動きが常に関連するととてもない分野なのです。まずは大きな流れを押さえておくために概説書を読んでみましょう。ここではイスラーム史に関連する概説書を紹介します。

論集をあさる

論文は一つの問いに対し、一つの答えを与えるものです。論文は雑誌に掲載されるのですが、全体的な状況を知らないときに雑誌論文一つだけを読んでも物足りなさや、狐につままれたような感じを得ることがあるでしょう。論集は一定のまとまりをもって論文を集めたものです。まずはここから論文読みに入りましょう。

辞典を「読む」

辞典・事典を甘く見てはいけません。研究には「工具」というものが必須となりますが、もっとも身近な「工具」が辞典です。ものを調べる癖をつけるためにも辞典に親しみましょう。そして同時に、辞典は調べるだけでなく「読む」こともできるのです。

目的なく雑誌を読む

もちろんここで言う雑誌とは論文を集めた雑誌のことです。雑誌は普通、読みたい論文があるときに手にとって、必要な部分だけ読むものですが、パラパラとめくっているとわぬ発見があることもあります。そして何より雑誌そのものに慣れるためにも手に取ってみましょう。

イスラーム史じゃない本も見てみる

何が悲しくてこれほどの書物が集まった慶應義塾図書館を前にして専門の本ばかりを読まなくてはならないのでしょうか。そして視野を広げるということも研究には必要ではないでしょうか。イスラームとは直接は関係なくても役に立つだろう本を独断と偏見で紹介します。

■ 概論

関連文献を探すには、さまざまな方法があります。まずは、どんな風を探すかをパターン別に示します。その後で、それぞれのやり方を詳しく説明します。三田メディアセンターの「資料の探し方（学部学生のための情報検索ツール選）」¹⁾も参照してください。

●とりあえず、ある地域ある時代の概説を軽く知りたい。

本稿で挙げた概説で充分です。第 1.2 節を読んでください。

●ある大きなテーマ（イランの歴史とか）に関連する単行本を網羅的に知りたい。

慶應義塾で持っているものについては KOSMOS-OPAC（第 2.2 節参照）の件名検索や分類検索を使用します。所蔵にこだわらないなら NACSIS-Webcat（2.4.3 項参照）や NDL-OPAC（第 2.3 節参照）、World Cat（2.4.4 項参照）、アメリカ議会図書館（Library of Congress: LC と略す。2.4.5 項参照）の件名検索を使用します。

●ある中くらいのテーマ（シーア派とかマムルーク朝のエジプトとか）に関連する単行本を網羅的に知りたい。

慶應義塾で持っているものについては KOSMOS-OPAC の件名検索を英語で行います。所蔵にこだわらないなら NACSIS-Webcat や NDL-OPAC、LC の件名検索を使用します。

●ある中くらいのテーマ（シーア派とかマムルーク朝のエジプトとか）に関して定評ある単行本・論文を知りたい。

解題付きの書誌を使用します。分かっているとは思いますが KOSMOS-OPAC では単行本になっていない論文は検索できません。

●ある中くらいのテーマ（シーア派とかマムルーク朝のエジプトとか）に関して論文を知りたい。

NDL-OPAC でキーワード検索を、および Index Islamicus（2.6.2 項参照）で地域や時代を特定した検索やキーワード検索などをします。それでも、中くらいのテーマではかなり大量の結果が出てくるでしょうから、覚悟が必要です。

●ある小さなテーマ（オスマン朝 1627 年の大宰相交代の背景における後宮勢力の役割について、とか）に関して知りたい。

1. 解題付きの書誌で、ちょうどよいものがないか、とりあえず見てみます。
2. NDL-OPAC、Web 版「日本における中東・イスラーム研究文献目録の検索」²⁾、および Index Islamicus でテーマの時代や分野で、何か書いている研究者の名前を入れて検索します。
3. NDL-OPAC、Web 版「日本における中東・イスラーム研究文献目録の検索」、および Index Islamicus で関係ありそうな言葉をバカスカ打ち込んで検索します。それ以外の解題なしの書誌も目を皿にして走査してみます。
4. Encyclopadia of Islam や『歴史学事典』などで関係ありそうな言葉を引いてみて、その項最後に挙げられている文献を見ます。そこから芋づります。

5. 解題付きの書誌で、その時代に関する定評ある概説を見つけ、その概説中の註や文献リストで挙げられている文献を走査します。見つけたら、とにかく芋づる式に探します。

6. Google で関係ありそうな言葉を日本語と英語で検索します。 .edu や .ac ドメインのサイト（すなわち教育機関のドメイン以下のサイト）があれば、それを見ます。もしかしたらその中で、なにか文献に言及しているかもしれません。そしてその文献から芋づります。

7. 解題付きの書誌などで、その分野について一番知っていそうな人を見つけます。その人の所属機関の Web サイトを見て、連絡手段を知ります。しかるべきのちに気合いで聞きます。不安なら先生を通します。

8. 英語ができるなら、イスラーム研究のメーリングリストやニュースグループに加入して聞いてみるのも手でしょう。

9. それでもなければ、文献がないのでしょう。あなたが文献を作ります。もしかしたら史料がなくて、どうにもならないのかもしれませんが。

1) <http://www.lib.mita.keio.ac.jp/reftool/index.html>

2) http://61.197.194.9/Database/CA_ISLM_QueryInput.html

■ KOSMOS-OPAC を使う

まずは、みなさんも最低一度は使ったことがあるであろう KOSMOS II-OPAC1) で、関連書籍を見つけてみましょう。慶應義塾図書館は前嶋文庫をはじめとてなかなか資料の収集でも優秀です。とりあえずは、その蔵書を探しましょう。

ただし KOSMOS II-OPAC はあくまで、慶應義塾図書館の所蔵目録だということを忘れないでください。本筋から言えば、書誌などで文献を見つけ、それを本塾図書館が持っているか確認するのが OPAC です。従って、本来ならば、この項は第四章に含まれるべき項目です。たまたま手近で、もっとも利用頻度が高そうな検索ツールが OPAC なので、ここに記載されているだけです。

KOSMOS II-OPAC2) は、丸善がこれまで開発してきた OPAC の中でもかなり強力なデータ検索機能を実装しています。それを使わない手はありません。では、まず OPAC を開いてみましょう。

ご覧のように、キーワード検索の画面では、上から、キーワードによる検索（全て、書名・誌名中の語、正確な書名・誌名、著者名、人名件名、出版者、ISSN、ISBN、内容注記、その他の番号）、主題による検索、絞り込み検索となっています。

この中で書名、著者名以外のキーワード検索や、主題による検索（件名・分類）を使う機会はあまり無かったのではないのでしょうか。実は、これを使いこなすことが KOSMOS II-OPAC をより便利にするのです。

また、さらに上記の各項で、AND 検索、OR 検索、NOT 検索を行うことができます。特に NOT 検索の実装は Web-OPAC では珍しいので活用してみましょう。たとえば「件名に、コーランないしは Koran ないしは Quran を含み、かつ英語ではなく、1980 年以降に出版されたもの」という指定が出来ます。

2.2.1 キーワードによる検索

キーワード検索は、著者や題名などのキーワードで調べるモードです。デフォルトで、キーワード入力欄が二つ表示されており、ひとつ目が「書名・誌名中の語」、ふたつ目が「著者名」となっています。

これらのキーワード入力欄は、増やしたり減らしたりすることができます。そしてこれらのキーワード間でも、AND 検索、OR 検索、NOT 検索を行うことが出来ます。キーワード入力を増やせば増やすほど絞り込みが正確になるでしょう。

●● 全般的な注意と tips ●●

各項目について詳説する前に全般的な注意を行います。HELP に書いてあることの繰り返しですが、

とにかく気をつけて欲しいのが、Web 上の検索サイトのお約束と違って、スペースは AND 検索の区切り文字ではないということです。つまり Yahoo! などでは、「イラン 革命」と入力すれば、「イラン」と「革命」という語を含むリソースを検索しますが、KOSMOS-OPAC は正直に「イラン 革命」という語、およびスペースを削除した「イラン革命」という語を含む書籍を検索します。したがって「イランの革命」という書物はヒットしません。これは FAQ に属することですが、勘違いをしている人が非常に多い問題です。

AND 検索をするにはキーワード入力欄を増やせばよいのですが、面倒です。同一フィールド内で AND 検索をするには、*（アスタリスク）を用います。上記の例では「イラン* 革命」です。アスタリスクは半角（*）でも全角（＊）でも構いません。同

様に OR 検索は「+」、NOT 検索は「!」を用います。

1) 正確には KeiO university System of Multimedia Online Services 2 -Online Public Access Catalogue

2) <http://www.opac.lib.keio.ac.jp/helpfrm.htm>

●● 各項目について ●●

書名・誌名中の語

そのまんまです。書名・誌名に含まれる言葉を入力します。部分一致なので、書名の一部でもヒットします。また、たいていの場合、副題中の語もヒットします。ただし、くれぐれも上記の注意を忘れないでください。

・書名が分かっていないときは、名詞はできる限り単語に分割してください。また、その時は助詞を入れてはいけません。オンライン検索のお約束です。たとえば「イラン立憲革命」は「イラン*立憲*革命」とします。こうすることで「イランの革命と立憲制」などという書名でも検索されます。日本語には分かち書きの伝統がありませんので、検索する方で対応する必要があります。

・上の方法で一件もヒットしなかったら、一般的ではない言葉から削除していきます。「イラン*立憲*革命」では、どれも一般的ですが、歴史学の方法上、まず「立憲」を削ってみるのがオーソドックスです。そうすれば『イランの二つの革命』がヒットするかもしれません。

・細かいことですが、「イランの歴史」系の概説が欲しいときなどは、「イラン*歴史」ではなく「イラン*史」とするほうがよいでしょう。日本では「地名」+「史」という使い方が一般的です。

・調べたい言葉、たとえば「イスラーム神学」のように「イスラーム」という語が入る場合は、常にそれを「イスラム」「回教」とした語でも検索してみてください。これは以下のどのプロセスでも共通です。

正確な書名・誌名

そのまんま。こちらは完全一致です。自信があれば使ってもいいでしょう。

・雑誌を探すときはこちらを使うほうがいいです。雑誌は一般的な言葉がタイトルになっていることが多いからです。

著者名

これまた解説の必要がありません。ただし複数著者の書物などの場合、必ずしも著者それぞれが著者名でヒットするとは限りません。また編者がいる場合は編者がここに入ってしまうです。

KOSMOS-OPAC のヘルプにもありますが、たとえ訳書であっても、著者が非漢字姓の外国人の場合は、必ずアルファベットで入力してください。カタカナで打ってもヒットしません（たとえば「イブン」と入力しても「鎌倉遺文」関連しか出てこないでしょう）。

また必ず姓は先にします。ただし、姓のほかに最低限イニシャルは付してください。たとえば、バーナード・ルイスなら「Lewis,B?」と姓の後にコンマ（半角）を打ち、イニシャルを付して前方一致を意味する？（それ以下はいつでもよいということ。つまり Lewis, Bernard でも、Lewis, Barbara でもヒットする）をつけます。そうでないとヒット量が半端でなくなって、OPAC が止まりかねません。

・上記のファーストネームのイニシャルを付しての検索における検索式について、疑問を持たれた方がいるかもしれません。上記のような方式をとる理由は KOSMOS II-OPAC が著者名検索については前方一致固定になっているためです。たとえば「Lewis*B?」とすると、「Lewis」という姓の著者および「B」から始まる姓の著者を

ともに含む書籍（つまり著者が複数）を探しに行きます。したがって、バーナード・ルイスの著作はヒットしないのです。

人名件名

伝記など、ある人物が当該書籍の何らかの対象となっている場合、その人物名がこのフィールドに入ります。たとえば張佐良（早坂義征訳『周恩来・最後の十年——ある主治医の回想録』日本経済新聞社，1999. では「周恩来」がこのフィールドに入力されます。

出版者

一般的には出版社のことです。あまり使用する機会はないとおもいます。

ISSN

ISSN とは International Standard Serial Number のことです。ISSN は、世界中の雑誌に一意のナンバーがふられています。したがって、ISSN さえあれば、ある雑誌を特定できます。ISSN がわかっている限り、雑誌を検索するには ISSN を使用してください。ISSN に含まれているハイフンは取り除いて、数字のみを入力します。

. もっとも ISSN があっても、KOSMOS-OPAC に入力されていないものがあります。代表的な例としては『イスラム世界』。馬鹿馬鹿しいですが、そこは注意してください。

ISBN

ISBN とは International Standard Book Number のことです。ISBN は、世界中の書籍に一意のナンバーがふられている URN です。その辺で買った本でも背表紙を見れば、ISBN が記載されているはずですが、ですから ISBN さえあれば、著者がわからなかりうが、題名がわからなかりうが、ある書籍を特定できます。誤入力による誤ヒットを防ぐためにも、ISBN がわかっている限り、書籍を検索するには ISBN を使用してください。ISBN に含まれているハイフンは取り除いて、数字のみを入力します。

. もっとも ISBN があっても、古い書物については、KOSMOS-OPAC に入力されていないものがあります。

内容注記

KOSMOS-OPAC では、「岩波講座 世界歴史」などのシリーズはまとめて表示することができます。その場合に各巻の情報が入るのがこのフィールドです。「書名＝世界の歴史」「内容注記＝イスラーム」などと使います。

その他の番号

たとえば、本塾図書館が独自に、物理的な各書籍一冊一冊に対して与えている一意の Book ID や請求番号などです。

全て

上記全てです。しかし、各書籍の付録として付いている「文献案内」や「年表」などを記した「注記」フィールドは、残念ながら検索できません。

2.2.2 主題による検索

本節はどちらかというと、キーワード検索よりも、こちらを説明したくて書いてあります。たぶん使ったことがないでしょうから、試してみてください。主題による検索には、「件名による検索」と「分類による検索」があります。

●● 件名による検索 ●●

では、主題による検索のうち、まず件名について説明します。件名とは、書物の内容についてのキーワードのことで、複数設定されています。たとえば「トルコ・歴史」など。

この項目についての検索対象は、デフォルトで「全て」となっています。普通はこ

れで構いませんが、各項目について説明しておきます。ここで注意しておきたいのは、日本語で検索するより、英語で検索したほうが、より詳細に検索できるということです。その理由は下に記してあります。このフィールドは前方一致です。「Safavi」か「Safavid」か迷ったら、「Safavi?」としてください。

BSH

Basic Subject Headings「基本件名標目表」で件名を検索します。この標目表は、日本の図書館で標準の標目表です。日本語で調べられるので楽ですが、たとえばサファヴィー朝に関する本でも「イラン—歴史」などの件名が精一杯なので、軽く検索することしかできません。どのような標目があるかについてはOPACトップの「索引語一覧」から「件名 (BSH)」で検索します。書籍の形では日本図書館協会件名標目委員会編『基本件名標目表』日本図書館協会, 4th ed., 1999. ISBN: 4820499122 があります。

・つい最近まで標目表では、イスラームやイスラムではなく「回教」という表記が用いられていたということにも注意してください。代表的な標目としては「歴史—回教圏」などがあります。「回教圏*婦人」などとして使ってください。

MESH

「医学図書館件名標目表」。要するに医学用。この際、どうでもいいです。

LCSH

Library of Congress Subject Headings「議会図書館件名標目」で件名を検索します。洋書ではこちらが標準となります。BSHと違い、かなり細やかな件名が設定されています。どのような標目があるかについてはOPACトップの「索引語一覧」から「件名 (LCSH)」で検索します。たとえば上で挙げたサファヴィー朝関連の文献でしたら「Iran, Politics and government」および「Iran, History, Safavid dynasty, 1501-1736」のような件名が設定されます。したがって、「主題による検索」を行う際には、英語で検索するのが賢い方法です。

LCSHに記載される件名はLibrary of Congress, Library of Congress Subject Headings, Washington, 197x-に記載されています。最新版は第25版でCataloging Policy and Support Office³⁾から毎週追加が出ます。

3) <http://lcweb.loc.gov/catdir/cpso/cpso.html>

その他

慶應義塾図書館では、件名項目に、上記以外の方法で入力しているものもあります(かなりの量)。たとえば羽田正『勲爵士シャルダンの生涯』では、BSHやLCSHに従った件名はありませんが、「Chardin, John, Sir, 1643-1713」という件名が付されています。この場合は、滅多に日本語では入力されません。このことも英語で「全て」を検索したほうがよい理由です。

●● 分類による検索 ●●

次に分類による検索の項目についてです。分類は、ある本を分類表のあるカテゴリにあてはめ、その本に分類表上の番号を与えたものです。件名と違って番号ですので、番号さえわかれば検索がしやすいと言えます。こちらでもデフォルトで「全て」となっています。普通はこれで構いませんが、一応各項目について説明しておきます。なお、分類番号は時に二つ以上の番号が付与されることがあります。

NDC

NDCとはNippon Decimal Classificationの略で、『日本十進分類法』という本の分類数字です。3桁+コンマ以下によって規定されています。日本の図書館での書架は、

一般的に日本十進分類法によって配列されています。したがって当分類法を知ること
は、検索だけではなく、上記に掲げた図書館をうろつくためにも非常に重要です。最
低限次の第一レベルだけは覚えてください。

000: 総記; 100: 哲学; 200: 歴史; 300: 社会科学; 400: 自然科学; 500: 技術; 600: 産業;
700: 芸術; 800: 言語; 900: 文学。

関連のありそうな分野については第5章で列記します。もっとも、そちらを見て
もらえれば分かるとおり、件名の場合と同様で、NDCではイスラーム関連のものに
ついては、たいした分類がされません。

★しかし、それでもやっぱり日本の図書館を利用する限りつきまとうものですから、
知っておいたほうが身のためのような気がします。ついでですから、おおまかなこと
を解説します。十進分類の名の通り、大まかな分類から順に、ひと桁ずつ細かくして
いくのが、NDCの分類法です。たとえば、300（概念上は3ですが便宜上0を付し
て300と表記します）は社会科学です。第二桁にさらに2を付して320（同様に32）
は法律です。さらに2を付して322は法制です。三桁目と四桁目の間にはピリオド
が打たれます。そして322.9は外国法となります。これが基本です。

さて、「外国法」や「歴史」「政治事情」などは、それ以下で地域別に分けることが
できますね。そして、それらの分類は共通のものを使うことが出来るはずで、そこ
で作られたのが「一般補助表 I-a. 地理区分」で、地域ごとに分類がふられています。
地理区分も十進分類で、たとえばアジアは2、インドは25、パキстанは257、バ
ングラデシュは（東パキстанだったから）2576となります。この番号を「外国法」
や「歴史」「政治事情」の概念的な分類に付すことで、地域分類が完成するわけです。
外国法は322.9でした。論理的には322.9+25で322.925はインド法です。そして
200+257で225.7はパキстан史です（このとき200の0は削除します）。以上が十
進分類法の概要です。簡単ですね。なお、標目としてない項目については、NDC別
巻の「一般補助表・相関索引編」の相関索引を利用するとよいでしょう（イスラーム
関連のものはたいしたキーワードが載っていませんが）。以上に関して、より詳しい
ことは、もり・きよし原編（日本図書館協会分類委員会改訂）『日本十進分類法』日
本図書館協会、新訂9版、1995。ISBN: 4820495100を参照してください。なお、同書
の巻頭「解説」は日本の大学のB.A.を持つ者は必ず一度は読んでおくべき文書だと思
います。

DDC

海外で一般的なデューイ十進分類法のこと。私はよく知りません。一応NDCのご
先祖様。ですが、分類の仕方は第一レベルから違います。

その他

分類方法には、大英図書館だの中国科学院だのいろいろな方法があります。それら
のことです。

■ NDLOPAC を使う

NDL-OPAC は国立国会図書館の OPAC です。まずは「国立国会図書館：資料の検索」1) を開いてみましょう。

国立国会図書館は、国内で発行されたものなら、法的には何でも持っているはずですが、また各種学位論文なども収められています。

NDL-OPAC では一般に出ていない博士論文なども検索できます。さらに 2002 年 11 月から、完全に公開されたかたちで「雑誌記事索引」を検索することができるようになりました。なお、後述する NACSIS-Webcat では国立国会図書館の蔵書は検索されませんので、注意してください。

2.3.1 書籍

日本の書籍なら、まず見つかることでしょう。件名などもわりと忠実に入力されているので、使ってみてもよいでしょう。

2.3.2 雑誌記事索引

NDL-OPAC の最大の強みは、インターネット上から「雑誌記事索引」を利用できることです。「雑誌記事索引」には、学術雑誌などに投稿された論文の論題や著者などが登録されており、それを検索することが出来ます。これまでは契約をして Magazine-Plus を導入している大学などからしか利用できませんでしたが、2002 年 11 月よりインターネット上に無料で公開されました。なお 1989 年までの雑誌記事索引は書籍化された国立国会図書館編『雑誌記事索引人文社会編』1948-1989. ISBN: 4314100842 があります。メインカウンター前の吹き抜けを囲む書架のうち、言語辞書の側にあります。

1) <http://www.ndl.go.jp/jp/data/opac.html>

■ その他のオンライン蔵書目録を使う

慶應義塾図書館や国立国会図書館が世界中で出版された全ての書物を持っているわけではありません。単に文献があるかどうか知るのであれば、どこの図書館で持っていたとしても関係ありませんから、他機関の蔵書目録も調べてみましょう。

2.4.1 WINE

ワイン

早稲田大学の OPAC, WINE です 1)。使い方は KOSMOS-OPAC と酷似しています。早稲田大学の図書館は、慶應義塾の図書館と同じように利用でき、コピーを取り寄せても 1 枚 10 円で済むので、利用してみる価値はあるでしょう。

2.4.2 東京大学蔵書検索

東京大学の OPAC です 2)。WINE や KOSMOS-OPAC より若干使い勝手がいいシステムです。内容に簡略な説明を加えてある「コンテンツデータベース」と連動しているのが魅力的です。また i-mode 版もありますので、授業中に書誌を示したくても忘れてしまった場合などに有用です。

2.4.3 NACSISWebcat

国立情報学研究所が運営する各大学の蔵書を横断的に検索できる Webcat システム 3)。検索機能は各図書館独自の検索システムより劣りますが、国内の数多くの図書館と大英図書館、オックスフォード、ケンブリッジの図書館など 4) を一気に検索できるのが強みです。実際には文献を手に入れる段階で、その強みが発揮されます。ただし国立国会図書館、早稲田大学の蔵書は検索できないので注意が必要です。

2.4.4 World Cat

全世界の書籍とその所蔵情報を検索することができます。所蔵情報量は億単位です。特に英語書籍はほぼ全て収められているといわれます。所蔵館は合衆国の図書館が中心となり、必ずしも慶應義塾図書館に文献を取り寄せられるとは限りませんので、レファレンス・カウンターに確認が必要です。

また、このデータベースは有料であり、インターネットに接続しているだけでは利用できません。慶應義塾設置のコンピュータから図書館の Web サイトのデータベース一覧 5) にアクセスし、First Search というデータベースを選択します。その中の 1 データベースとして利用することができます。

- 1) http://wine.wul.waseda.ac.jp/screens/mainmenu_jpn.html
- 2) <http://opac.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/>
- 3) <http://webcat.nii.ac.jp/>
- 4) 接続機関一覧：<http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/BIN/sanka-kan.cgi?>
- 5) <http://www.lib.mita.keio.ac.jp/db/web.html>

2.4.5 Library of Congress Online Catalogs

アメリカ議会図書館 6)。世界最大の蔵書数と言われています。洋書ならまず持っているのではないのでしょうか。検索機能も充実しています。

2.4.6 Bibliotheque nationale de France

フランスの国立図書館 7). フランス語書籍ならここです.

2.4.7 Deutsche Bibliothek

ドイツの国立図書館 8). ドイツ語書籍ならここです.

6) <http://catalog.loc.gov/>

7) <http://catalogue1.bnf.fr/catalogue.htm>

8) http://www.ddb.de/index_txt_e.htm

■ その他のオンライン雑誌目録を使う

国立国会図書館の「雑誌記事索引」以外で雑誌に掲載された論文を横断的に検索できるシステムを紹介します。イスラームに関して専門的に扱うものは第 2.6 節の書誌の使い方の説明します。

2.5.1 MagazinePlus

Magazine-Plus は日外アソシエーツの運営する雑誌記事索引サービスです。実質的に NDL-OPAC の雑誌記事索引と同じですが、こちらは記念論文集（～退官記念とか）が検索できる点、月 2 回の更新のため最新の論文の登録は NDL-OPAC よりずっと速いという点が利点、1975 年以降の国内発行の雑誌に限られることが欠点となります。

Magazine-Plus は慶應義塾設置のコンピュータから使用することができます。図書館の Web サイトのデータベース一覧 1) から Magazine-Plus を選択して利用します。

使用法は特に難しくありませんので、OPAC の項で説明したキーワードの選び方などを考えて、検索してください。

2.5.2 First Search

米 Online Computer Library Center: OCLC が提供するシステムです。複数の専門分野データベースから最大 3 つのデータベースを選択し、横断的に論文を選択できます。対象は欧文論文に限ります。歴史では Arts & Humanities Search や Humanities abstract を使用する機会が多いでしょう。双方ともおおむね 1980 年以降の雑誌記事を検索することができます。更新は頻繁で最新のものをを見つけることができます。

利用は Magazine-Plus と同じく慶應義塾設置のコンピュータからとなります。図書館の Web サイトのデータベース一覧 2) から First Search を選択して利用します。

1) <http://www.lib.mita.keio.ac.jp/db/web.html>

2) <http://www.lib.mita.keio.ac.jp/db/web.html>

■書誌を使う

文献目録の親玉のようなものを書誌と言います。特に解題のついている文献目録は、非常に役に立ちます。

2.6.1 解題付き

三浦徹・東長靖・黒木英充編『イスラーム研究ハンドブック』（講座イスラーム世界別巻），栄光教育文化研究所，1995。ISBN:4897110017

本書は，イスラーム研究に関わる工具類，文献紹介，語彙集，年表，地図などを備えた総合的なハンドブックです。この本を参照するとしないのでは，ずいぶんと文献の広がり印象が変わるでしょう。一冊持っておくとよいように思います。なお，文献紹介の項目は以下の通りです。

東長靖編：道具類；小田淑子：コーラン・ハディース；柳橋博之：法学；東長靖：スーフィズム；鎌田繁：シーア派等諸派；塩尻和子：神学；小林春夫：哲学；飯塚正人：政治思想；黒木英充：東方キリスト教；藤井悦子：ユダヤ教；私市正年：マグリブ・アンダルス（前近代）；小山田紀子：マグリブ（近現代）；清水和裕：マシュリク（前近代 11 世紀以前）；長谷部史彦：マシュリク（前近代 12 世紀～18 世紀）；黒木英充：マシュリク（近現代 シリア・イラク）；長沢栄治：マシュリク（近現代 エジプト・スーダン）；福田安志：マシュリク（近現代 アラビア半島）；羽田正：イラン（前近代）；小牧昌平：イラン（近現代）；三沢伸生：トルコ（前近代）；新井政美：トルコ（近現代）；久保一之：中央アジア（前近代）；宇山智彦：中央アジア（近現代）；日野舜也：東アフリカ；嶋田義仁：西アフリカ；小名康之：インド（前近代）；内藤雅雄：インド（近現代）；弘末雅士：東南アジア；片岡一忠：中国；家島彦一：地域間コミュニケーション；宮田律：国際政治におけるイスラーム；岡野内正：国際経済とイスラーム；臼杵陽：パレスティナ問題；小杉泰：イスラーム復興運動；吉村慎太郎：マイノリティ・エスニシティ問題；加藤博：経済と社会：社会経済史から；堀内正樹：社会と文化：社会人類学から；大穂哲也：「聖者」と「聖者崇拜」；三浦徹：ウラマー；林佳世子：ワクフ；宮治美江子：女性；加納弘勝：社会分析の視点；杉田英明：アラブ文学；藤井守男：ペルシア文学；勝田茂：トルコ文学；麻田豊：ウルドゥー文学；中原道子：マレー文学；ヤマンラール・水野美奈子：美術；山田幸正：建築；水野信男：音楽；高野晶弘：映画・演劇；鈴木孝典：科学・技術；保坂修司：コンピュータ・ネットワークとイスラーム研究

『アジア歴史研究入門4 内陸アジア・西アジア』同朋舎出版，1984。ISBN:4810403696

日本語で先行研究を知るために使うのが『イスラーム研究ハンドブック』であれば，こちらは研究とともに史料を知るのに非常に有用です。かなり古くなっているとはいえ，日本語で網羅的な史料紹介をしている書物は，いまだ本書しかありません。ただしそれぞれの項とも全て前近代だけです。

間野英二：トルキスタン

佐藤次高：イスラーム総論（文献解題・工具類・概説書・雑誌）

森本公誠：アラブ（前期）

佐藤次高：アラブ（後期）

本田實信：イラン

濱田正美：トルコ

「回顧と展望」『史学雑誌』1892-. ISSN: 00182478

東京大学の史学雑誌五月号には、毎年の歴史学界の動向について「回顧と展望」と題して評論がのります。したがって、古い方から順番にこれを読むとおおむねの研究動向が分かるわけです。地域別、時代別のそれぞれの分野について、その当時の若手～中堅の研究者が執筆しています。図書館2階の西閲覧室（つまり中庭側）の大学紀要コーナー中「東京大学」の項にあります。

なお、1985年分までについては史学会編『日本歴史学会の回顧と展望 10 西アジア・北アフリカ 1949-1985』山川出版社,1988. ISBN: 4634311003 でまとめられています。

『世界各国史』山川出版社 ISBN:4634413809

各巻巻末の文献紹介は、かなりしっかりしていますが、膨大に紹介するというわけでもないの、的確に読むべき本を見つけるには有用です。

2.6.2 解題なし

Index Islamicus,1958-ISSN: 13600982

1958年にまとめられた文献目録。その後、逐次最新の研究をまとめて目録化、発行するようになりました。イスラーム研究上、最大の文献目録です。現在は年四回発行。時代、地域ごとに発表された論文が欧文を中心に掲載されています。三田メディアセンターでは、メインカウンター前の階段を下りた地下1階の正面一番右側の棚、その左の方にあります。製本される前のものは、かなりどぎつい緑色なのですぐわかるでしょう。

1995年分までをまとめたCD-ROMが出されており、1階レファレンスカウンターで、「Index IslamicusのCD-ROMを貸して」といえば、貸してくれます（開館～17時50分まで）。全てを書籍で調べるには、とんでもない労力が必要なので、CD-ROMを使うのが賢いといえるでしょう。ただし、検索用のアプリケーションは賢くありません。一覧表の状態で印刷しても表題が切れ切れになったりして役に立ちません。フロッピーディスクをもちこみ、テキスト形式で保存した上で、Excelなりで編集して使うのが実用的です。

ユネスコ東アジア文化研究センター編『日本における中東・イスラーム研究文献目録 1868年-1988年』全2巻,1992. ISBN:4896563344

ユネスコ東アジア文化研究センター編『日本における中央アジア研究文献目録 1879年-1987年3月』全2巻,1988. ISBN:4896563271

表題年号までの日本で発表された全ての研究が掲載されています。和文での論文を知りたいければ、まずは本書にあたるのが確実です。若干古くなっているのは否めませんが、東洋文庫で「日本における中東・イスラーム研究文献目録の検索」1)と「中央アジア研究文献目録の検索」2)として、その後のデータを追加したデータベースをオンラインで公開しています。これを利用するとよいでしょう。

1) http://61.197.194.9/Database/CA_ISLM_QueryInput.html: 2003年12月12日更新・冊子に比べ10000件追加

2) <http://www.toyo-bunko.or.jp/ceacs/CentralAsia.html>: 2003年2月20日更新・冊子に比べ7341件追加

但し、1988年以降のものについては、必ずしも入力されているわけではありません3)。また、入力されていても、入力やインデクサイズの不備により、全てのキーワードで必ずヒットするというものではありませんので、いくつかキーワードを変えながら検索するとよいでしょう。

「イスラーム関係新刊書リスト」「最新主要欧文論文」『イスラム世界』[三田所蔵：三階東]

イスラーム関係で発表された最新の欧文論文を雑誌別に、イスラームおよびイスラーム世界に関連して出版された日本語の書籍、論文を地域、テーマ別に一覧できます。日本語の書籍の出版情報はなかなかないので、これを参照するとよいでしょう。1993年の第41号から設けられました。

「第6章論集イスラーム関連題目一覧」

日本語論文の場合、雑誌に掲載された論文についてはNDL-OPACやMagazine-Plusで調べることができます。また、論集（たとえば『岩波講座 世界歴史』）や単行本に収められている論文でも、上記にあげた東洋文庫の「日本における中東・イスラーム研究文献目録」で調べることが出来ます。しかし東洋文庫のデータベースは、新しい論集などに含まれる論文を必ずしも網羅していません。そうすると芋づる式に調べるか、偶然目にしていない限り、たどりつくことができません。それを補うために論集所収の論文題目一覧を作成しました。かなり抜けはありますが、ないよりはましでしょう。

3) ユネスコ東アジア文化研究センターの廃止により更新は停止された模様です。また、このデータベースが今後維持されるのかも不明です。

■参考文献を芋づる

ここまで、長々と OPAC や書誌などのいろいろな使い方を説明してきました。しかしながら、文献目録のようなものは、その性格上、網羅的であって、個別的ではありません。したがってテーマを細かく絞れば絞るほど、目録などから関連文献を見つける困難さの度合いは増してゆきます。

2.7.1 引用註の利用

そのような時は、どうするのか。ここで学術論文という体裁が生きてくるのです。学術論文は、原則として、誰かの何らかの成果によってわかったことに言及する箇所には、註をつけて、何を根拠にそんなことをいっているかの情報源を示すことになっています。ですから、自分のテーマにぴったりの論文が見つからなくても、関連する論文をいくつか読んで、註に示された文献を次々にあたってゆくことによって、ぴったりの論文や、あるいは原典にたどりつくことができるのです。たとえば、ある論文で一行しか言及していないことでも、そこに註がついていて、文献が示されていれば、さきに見た論文の一行を導くために、註に示された文献では数十頁を費やしているかもしれません。そしてその数十頁には、これまた註が山ほど付けられているでしょう。

以上をふまえれば、文献目録をいくらか調べて、テーマにぴったりの論文が見つからなければ、それを文献目録などだけから、血眼になって探すのはあまり効率のよいことではないことがわかります。目録から探すと同時に、文献を芋づっていくことが、関連文献を探すスタイルとして推奨されます。

2.7.2 概説から

まずは、目録などから、ある中くらいのテーマに関する概説的な論文を見つけることです。そしてその概説についている註から、次の文献に当たり、さらにその註から、さらに次の文献を見つける、言うなれば文献の連鎖を辿ることによって、目指すテーマに直接関わる論文にたどり着くことが出来るでしょう。

たとえば「イラン立憲革命期のテヘランでのカーヌーン紙の流通状況」について知りたければ、書誌を検索すると同時に、イラン近代史の概説論文を見つけ、それを読んで、新聞について言及した箇所を探します。そしてその部分につけられた註から「イラン新聞史」に関わる論文をみつけます。そして、その「イラン新聞史」に関わる論文に、目指すテーマについて直接書かれているかもしれません。あるいは個々の新聞へ言及した論文についての註が付いていて、その中に「カーヌーン紙」に関する論文があるかもしれません。

また、似たような時代、地域の論文をいくつか読んで、必ず言及されている論文があるようなことがあります。それは、言及された論文が重要な研究であるということを示しています。自然科学の世界では、引用の回数で論文の重要さが決定される指標にもなっています。そのようなことにも注意してください。

2.7.3 研究史から

また「研究史」というジャンルの論文があります。このような論文は、特定のテーマについて、これまでの研究がどのように展開してきたかを整理しています。すなわち、特定のテーマに関わる「解題付き書誌」のようなものですから、ぜひ利用すべきです。このような論文を利用することで、自分の疑問は解決しているのか、あるい

は現在最新の研究の関心はどこにあるのか、がわかります。

■最後はにすぎる Web

世の中にはテーマが細かすぎて、ぴったりのものが出てこないことがよくあります。これは、単に史料がないだけかもしれません。しかし一方で、単行本の場合に最低限の商業ベースにも乗らなかった、あるいは論文の場合、きちんとした研究者がそのテーマに関心を抱かなかった、などの理由が考えられます。しかし世界は広いもので、まったく別の仕事をしている「在野の学」ともいべき人が Web で論文を発表していたり、あるいは学生や研究者が Web で研究ノートなどを公開しているかもしれません。そのようなリソースが利用できることも知っておくべきです。

Web で公開されているということは、全文が電子化されていることを意味します。したがって、Web で公開された情報は、Web 上をおよぎまわる検索エンジンのロボットに、文中に含まれる一語まで拾われます。そして我々は、その情報を検索サイトから調べることができます。検索エンジンの中でも特に優秀なのが、Google¹⁾ です。ロボット型の検索サイトはどれでも、ある語で検索すると、その語が含まれるリソースを表示します。Google では、さらに表示するリソースを、見出し中に検索語が含まれたか、本文中に検索語が何回出現したか、あるいは研究機関など重要なサイトからリンクされているか、などを総合的に勘案して、重要そうな順に表示してくれます。表示されたそれらの情報を一つ一つみていけばよいでしょう。その中でも特に .edu や .ac などのドメインに含まれるリソースであれば、若干は信用がおけます。論文体裁のものがあって、なにか文献を見つけることができれば、しめたものです。

ただし、それらのリソースを 100% 信用してはなりません。論文が学術雑誌に掲載されているということは、専門家のそれなりのジャッジを経て掲載されているので、信用できるものだということなのです。ですから、Web 上で集めた情報は、関連文献を見つけるためのもの、と割り切るのが吉です。信用できないリソースにもとづいた論文は、やはり信用できないものになってしまうからです。

100% 信用できないということは、過渡的な現象です。Semantic Web の理想が徐々に実現すれば、信用してよい指標も現れることと思います。現に電子工学や通信工学の世界では、紙ではなく Web 上のリソースをオリジナルとする場合も出てきています。

1) <http://www.google.com/>

■気合いで聞く

さて、本当に最後の手段、気合いで聞く、です。実は一番手っ取り早いのですが、あまりに多用するとただの「教えて君」だと思われるから、一応は上記の手順を踏んだ上で、実行すべきオプションです。

まず、第一に聞くべき相手は、図書館のレファレンス係の人です。それぞれ専門があるので当たりはずれはありますが、時々信じられないほど親切かつ博識で、まったく思いもつかなかった文献を教えてくれることがあります。逆に、こちらも知っているようなことしか教えてくれないこともあります。そのような時は、日を変えて再度アタックしてみましょう。

そして、とりあえず先生に聞いてみる、というのは正しい判断です。先生は、そのためにいるのですから。そうすれば、何らかのヒントはいただけると思います。そこからまた自分でがんばるということです。

やたらと込み入った話で、専門としている人に聞きたい、ということがあるかもしれません。そのような時は、別の大学の先生などに聞いてみることになるでしょう。面識があれば、まだましですが、知らないことのほうが多いでしょう。大学院生はいろいろな研究会に出たりして、いろいろな研究者を知っています。とりあえず院生に聞いてみましょう。そうすれば何らかのアクセス方法を教えてくれるかもしれません。もしかしたら院生自身が聞きたいことに関して知識を持っているかもしれません。これは湯川先生でも同じです。とにかく礼を尽くして、伺いを立てることです。

あるいはWebで検索すれば、専門家が自分のWebサイトを持っていて、メールアドレスを公開しているかもしれません。質問が歓迎されるかどうかはその人次第ですが、電子メールで質問するという手段もないわけではありません。しかし、軽く調べてわかるようなことを質問してはいけません。電子メールを出すということだけで、たとえわずかでも相手の時間を自分に割かせているということは自覚しておくべきです。もし質問に答えてくれても、それはボランティアなのです。

またインターネット上には、ニュースグループというオープンなメーリングリストのような存在もあります。日本語のものではたいしたものはありませんが、英語では著名な研究者も投稿しているようなニュースグループもあります。そのようなグループに参加して質問を投げてみるのも手です。この場合に注意すべき事は、過去ログをきちんと読んで似たような質問がなかったかも調べておくこと、そして、質問するだけして消滅してはいけないということです。ニュースグループの原則はGive&Takeです。自分も何らかのかたちで、他の参加者に利益を還元するようにしなければなりません。詳細は書きません。自分で調べてください。Googleで「newsgroup "islamic history"」などとすれば、いくつか出てくることでしょう。ただくれぐれも護教論を展開するためのグループか、研究が目的のグループかは注意するようにしてください。

■本書の価値は——書評を知る

論文には、「書評論文」というジャンルがあります。これはある書物について、その位置づけ、意義などを論文にしたものです。専門家が執筆するきちんとした論文ですから、手にした書物やこれから読んでみようという書物に書評論文があるなら、とりあえず読んでみるのがよいでしょう。

たまたま手に取った本だったけれど、それを参考文献リストに載せただけで馬鹿にされる、というような本もないわけではないのです。そのようなものをわざわざ評する人はあまりいないでしょうが、私たちが読んでいるときに、あまりに淡々と書いてあるので見過ごしてしまったけれど、専門家が読めば重大な新解釈だったりするようなことがあるかもしれないわけです。書評論文はそのことを教えてくれます。

書評論文は結構よく出ますので、Magazine-Plusなどで「書評」という語もキーワードとして検索してみるとよいでしょう。日本の新聞の書評などは、感想文に毛の生えたようなもので、本を読んだ後に読んでもあまり意味のないものが多いですが、欧文の新聞の場合は、役に立つ書評などがよく出ます。書評の見つけ方を自分で勉強してみてください。

また Web 上にも日本中東学会（イスラーム地域研究第5班にあったやつが復活）の「文献短評」¹⁾ や京都大学大学院アジア・アフリカ研究科東南アジア専攻連環地域論講座の「サイバー図書室」²⁾ などがあります。こんなにまとまって読めて、かつ信頼の置けるものはないので、ぜひ参照してください。

1) <http://wwwsoc.nii.ac.jp/james/books/book.html>: 新刊書の書評など。院生や研究者が書いてます

2) <http://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/asia/renkan/library/chosha50on-j.html>

湯川ゼミ 学生のための基礎技術
イスラーム史研究基礎入門

平成 14 年 4 月 24 日 第一版 発行
平成 14 年 10 月 12 日 第二版 発行
平成 15 年 3 月 21 日 第三版（増補） 発行
平成 16 年 4 月 16 日 第四版（増補） 発行
平成 17 年 7 月 31 日 第五版 発行

著 者

おおあしきょうへい
大足恭平

発 行 者

大足恭平

印 刷 所

慶應義塾三田インフォメーション・テクノロジー・センター

協 力



慶應義塾 三田ITC

〒108-8345 東京都港区三田2-15-45 Tel. 03-5427-1680 URL <http://web.mita.keio.ac.jp>

